

兵庫県生きがい創造協会経営ビジョン

(目指すべき将来像)

「県民の生涯にわたる学びを応援する先導拠点」
～みんなで支え合う活力あるふるさと兵庫の実現～



(公財) 兵庫県生きがい創造協会

目 次

I	経営ビジョン策定の趣旨	P 2
II	生きがい創造協会の果たしてきた役割・成果	P 3
III	生涯学習等を取り巻く事業環境の変化と課題	P 6
IV	生きがい創造協会が目指すべき将来像	P 9
V	生きがい創造協会の使命と取り組むべき事業のテーマ	P 9
1	生きがい創造協会の使命	P 9
2	取り組むべき事業のテーマ	P 10
VI	6つのテーマで取り組む主な事業	P 11
テーマ1	生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援	P 11
テーマ2	地域社会を支える高齢者の学びの支援	P 12
テーマ3	未来を担う青少年の育成	P 15
テーマ4	生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流	P 15
テーマ5	地域団体等の参画と協働による地域文化活動の支援	P 17
テーマ6	経営の健全性・透明性の確保	P 18
VII	経営ビジョンの事業体系	P 21

兵庫県生きがい創造協会経営ビジョン

I 経営ビジョン策定の趣旨

1 経営ビジョン策定の背景・経緯

(1) 協会の歩み

- ・当協会は、昭和 52 年にいなみ野学園の運営団体として設立された財団法人兵庫県高齢者生きがい創造協会を母体とし、創立以来 40 年にわたり、高齢者の生きがいづくりを支援する先導的取組みを推進してきた。
- ・平成 21 年度からは、県下の生涯教育の拠点である嬉野台生涯教育センターの指定管理者となるとともに、ふるさとひょうご創生塾の運営を担ったのを契機に、高齢者のみならずあらゆる世代の県民の生涯学習の取組みを支援する団体となり、名称を現在の「兵庫県生きがい創造協会」に変更した。
- ・平成 23 年度には、但馬文教府、西播磨文化会館及び淡路文化会館の指定管理者になり、地域高齢者大学事業や地域文化の振興事業も所管し、法人形態も財団法人から公益財団法人に移行した。

(2) 経営ビジョン策定の必要性

- ・このように当協会は、これまで広く県民の理解と参加を得て、高齢者をはじめとするあらゆる世代の県民自らが積極的に生きがいを創造する活動を支援し、県民の福祉の増進に寄与してきた。一方、少子高齢化やグローバル化など生涯学習を取り巻く社会状況等が大きく変化していく中、これら新たな事業環境に適切に対応していくことが求められている。
- ・そのため、平成 29～31 年度にかけて協会創立 40 周年など節目の時期を迎えるのを契機に、協会が今後果たすべき役割やコンセプトを明確にするとともに、生涯学習を先導する協会の将来を展望し、目指すべき将来像の実現方策を提示する経営ビジョンを策定し、限られた人員や予算を効率的、重点的に配分した事業展開を進め、県民福祉の一層の向上を図る。

2 経営ビジョンの性格と位置付け

(1) 協会運営の羅針盤

- ・経営ビジョンは、協会運営の基本指針・協会事業の行動指針として策定する。誰にどのようなサービスを提供するのかなど、協会運営の基本となる明確なコンセプトを示すとともに、事業の効率的・重点的運営の行動指針となるものである。

(2) 計画期間

- ・団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には、高齢者人口は 3,657 万人、高齢化率は 30.3% に至り、75 歳以上人口は 2,179 万人、75 歳以上が占める割合は 18.1% に至る。高齢者が高齢者を支えなければならない超高齢社会が到来する。
- ・このような 2025 年を展望し、2017 年～2020 年に取り組むべき具体的方策の方向性を提示する。

(3) 県政策との整合・市町等との役割分担

- ・兵庫県政の一翼を担う団体として、兵庫県地域創生戦略などの県計画、指定管理施設の基準や業務の範囲など、県事業の方針との整合を図る。
- ・また、市町、NPO 法人、民間企業等との役割分担にも留意しつつ、「広域性」（多様な学習資源のネットワーク化等）、「先導性」（先導的な講座の開設等）、「公益性」（地域づくり活動の人材養成等）、「補完性」（他の主体では対応困難な事業）に配慮した事業を展開する。

II 生きがい創造協会の果たしてきた役割・成果

1 高齢者の生きがいづくり支援

(1) 高齢者大学の運営とその拡大

- ・昭和 44 年から我が国初の 4 年制高齢者大学であり、その後の高齢者学習の優れたモデルとなったいなみ野学園の運営に取り組むとともに、昭和 54 年からラジオを通じて自宅で学ぶことができる高齢者放送大学を運営するほか、平成 9 年からは、新たに阪神間の県民を対象に阪神シニアカレッジを開設し、高齢者の学びを先導する取組みを進めている。
- ・また、文化会館等の指定管理業務受託に伴い、県地域高齢者大学事業（嬉野台生涯教育センターうれしの学園生涯大学、但馬文教府みてやま学園、西播磨文化会館ゆうゆう学園及び淡路文化会館いざなぎ学園）を受託して高齢者大学事業を拡大している。
- ・高齢者大学事業においては、カリキュラム、講師等の選定が前年踏襲になりやすいという課題がある。そこで、高齢者が望む生活スタイルの多様化を踏まえ、新たな学習カリキュラムの導入など高齢者のニーズに沿った学習機会の提供に努めている。

(2) 高齢者の広域的な交流・健康づくりの促進

- ・学ぶ高齢者のつどいの開催、シニアニュースポーツの普及、全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手派遣等の事業により高齢者の広域的な交流・健康づくりを促進し、高齢者の生きがいづくりを支援している。

2 地域を支える人材養成・地域づくり活動支援

(1) 高齢者大学における地域貢献人材の養成

- ・昭和 62 年のいなみ野学園での地域活動指導者養成講座（後に大学院に改編）の設置を皮切りに、現在では、いなみ野学園大学院講座、阪神ひと・まち創造講座及び地域高齢者大学の地域活動実践講座（嬉野台生涯教育センター・但馬文教府・西播磨文化会館・淡路文化会館）等の運営により、社会参加や地域課題等について専門的・実践的な学習の場を提供するなど、地域に貢献する人材の養成を行っているが、入学希望者が減少し、定員に満たない講座が増加しているという課題がある。
- ・高齢者大学等運営サポーター制度やいなみ野学園研究生制度により、実践活動の端緒をつくり、学びの社会還元の橋渡しを行って、高齢者の地域づくり活動（地域社会の共同利益の実現のための活動をいう。以下同じ。）を促進している。
- ・いなみ野学園及び阪神シニアカレッジの地域活動支援センター（平成 26 年度設置）の運営により、学生・卒業生へのボランティア情報の提供や具体的な地域づくり活動のマ

ッチングなど、学生・卒業生が行う地域づくり活動等を促進している。

(2) ふるさとひょうご創生塾の運営

- ・ふるさとひょうご創生塾運営事業(平成8年創設。平成20年度まで県直営)により、魅力あるリーダーシップを持った、ふるさとづくりの新しい地域リーダーを育成しているが、青年層・壮年層の入塾者が少ないという課題がある。
卒塾生は、ふるさとひょうご創生マイスターとして地域社会に貢献している。

3 次代を担う青少年の健全育成

(1) 生きる力を育む体験教育の推進

- ・昭和54年に我が国初の都道府県立の生涯教育センターとして設置され、兵庫教育大学と連携した青少年の野外活動実習を実施するなど、県の生涯教育の拠点施設の役割を果たしている嬉野台生涯教育センターの指定管理業務を平成21年度から受託し、県下唯一の施設を有するひょうご冒険教育(HAP)、キャンプなど野外体験を内容とするうれしの台ユースセミナー、自然学校等の体験活動を主としたセミナー等の開催・受入れを通じて課題解決能力や協調性を高め、次代を担う青少年の生きる力を育てている。
- ・また、ひょうご冒険教育(HAP)指導者セミナー・講習会、野外活動指導者養成講座等の開催により冒険教育や野外活動の指導者を養成している。

(2) ふるさと意識を醸成する青少年教育

- ・但馬文教府、西播磨文化会館及び淡路文化会館の指定管理業務を平成23年度から受託し、小中学生作文・詩集「但馬の子ども」の発行、科学する但馬の子ども作品展の開催、同研究集録の発行、いざなぎの丘元気っ子フェスティバルの開催など、多世代との交流、学校教育以外の教育活動を通じ、子どもの健全育成事業やふるさと意識を醸成する事業を実施している。

4 県民自らが取り組む生涯学習活動の総合的支援

(1) 生涯学習に関する情報・人材・活動の場の提供

- ・平成21年度から、生涯学習情報提供・相談事業、ひょうごインターキャンパス管理運営事業、生涯学習リーダーバンク事業(いずれも県からの受託事業)など、世代を超えた幅広い生涯学習活動を支援する事業を広域的・先導的に展開している。
- ・生活創造情報プラザを運営し、生活創造活動グループへの活動拠点を提供するなど、県民の主体的な生涯学習活動・地域づくり活動を支援している。

(2) 社会教育研修・調査研究

- ・社会教育職員研修事業や調査研究事業(平成20年度までは県直営。平成25年度までは嬉野台生涯教育センターで実施)を実施するなど、市町等の生涯学習機関スタッフの資質向上等を支援している。

(3) 生涯学習推進アドバイザーの派遣

- ・生涯学習に関する課題の解決を支援するため、平成26年度から市町等の要請に応じて有識者を生涯学習推進アドバイザーとして派遣している。

(4) 各種団体等との連携・ネットワーク化

- ・県民の多様なニーズに応えるため、各種団体等との連携を深め、相互補完により効果的な事業を実施している。

ア 生涯学習関係機関・団体等との連携

- ・多様な県民ニーズに効率的に応えるため、高齢者大学卒業生等で構成される団体、生活創造活動グループ、学校教育機関（大学、高等学校等）、社会教育施設（美術館、博物館等）、野外活動団体、地域文化団体など、生涯学習に関わる多様な機関・団体等との連携を推進している。

(例) 連携事業としての公開講座の開催、大学からの講師派遣、施設の相互利用

イ 高齢者大学、公民館等とのネットワーク化

- ・県民の広域的な交流を促進するため、兵庫県高齢者学習研究協議会や兵庫県公民館連合会の事務局を担うなど、県下高齢者大学等や公民館のネットワークづくりに寄与している。また、全国明るい長寿社会づくり推進機構連絡協議会に参画するなど、広域のネットワークを形成している。

(例) 学ぶ高齢者のつどい、県公民館大会等への参加、社会教育職員等研修の実施、会議等における情報交換・交流

5 地域文化の振興支援

- ・地域住民が地域の課題や歴史や文化に関心を持ち、地域文化を次世代につなぐ取組み、交流を通じたふるさと意識の醸成など地域コミュニティを強化する取組みを支援する。あわせて、地域住民が地域における自らの役割を認識して能力と個性を生かすことを支援する。

(1) 地域の特徴を生かした文化・交流事業の実施

- ・嬉野台生涯教育センター、但馬文教府、西播磨文化会館及び淡路文化会館において、地域の特徴を生かした多彩な文化事業や交流事業を実施しているが、貸館事業を含めて、各施設の利用者数が減少しているのが課題である。

(例) [嬉野台生涯教育センター]

うれしの春のフェスティバル、東はりまみんよう大会等

[但馬文教府]

但馬文学のつどい、但馬美術展等

[西播磨文化会館]

播州段文音頭大会、西播磨短歌祭等

[淡路文化会館]

淡路人形浄瑠璃後継者交流発表会、淡路だんじり唄コンクール等

(2) 地域文化団体の支援

- ・地域文化の継承・底上げを図るため、東播磨文化団体連合会、但馬文化協会、西播磨文化協会連絡協議会、淡路文化団体連絡協議会等の文化団体の事業活動を支援している。

Ⅲ 生涯学習等を取り巻く事業環境の変化と課題

- 1 少子高齢・人口減少社会の到来に伴う高齢者の役割の変化―支えられる側から支える側へー
 - ・兵庫県の人口は2025年には527万人まで減少し、高齢化率は2025年には30.3%に達すると推計され、現役世代だけではなく高齢者世代が高齢者を支えることが求められる時代を迎え、元気な高齢者には地域コミュニティの担い手としての活躍が期待されている。
 - ・国等の施策においても「生涯現役社会づくり」が進展し、これからの高齢者は、社会を支える側の存在として位置付けられている。
 - ・一億総活躍社会に向け、65歳以上の者の雇用継続も増加している。高齢者が地域で働くことは、地域経済・活力の支えとなるだけでなく、高齢者自身の地域コミュニティへの接続の機会をつくり、地域社会へのスムーズな回帰の実現に資する。
 - ・学びの成果を社会に生かす役割が生涯学習に求められている。

- 2 家族関係の希薄化・地域コミュニティの弱体化
 - ・核家族化が更に進み、単独世帯、中でも独居高齢者が大幅に増加するなど家族関係が希薄化している。地域社会のつながりの希薄化、相互扶助意識の低下など地域コミュニティの弱体化が一層進展し、社会的孤立のリスクが増大している。特に、地域コミュニティの構成員がほぼ同じ世代で構成される都市近郊のニュータウンでは、急激な高齢化に伴う地域コミュニティの弱体化が顕著となることが見込まれている。
 - ・同居家族がいる場合でも、老親が介護を要する状態に至ると、高齢者である子が支える側の役割を担わなければならない、いわゆる老老介護の問題が発生する。
 - ・家族関係の変化や価値観等の多様化により子どもたちと地域の人、異年齢の子どもたち等とのつながりが希薄化しており、自然とのふれあいも減少する中で、地域が子どもたちを育てる環境づくりが必要である。
 - ・新たなセーフティネット（地域包括支援体制）構築のため、生活サービス機能を集約化した小さな拠点（地域センター、公民館、JA店舗、道の駅等）が、各種支援サービスの提供のみならず、高齢者と子どもの世代間交流や住民同士が地域課題を話し合う場となり、共生型のまちづくりの拠点として実効をあげることが重要である。
 - ・また、市町村合併により却って地方は疲弊し、コミュニティが弱体化している。これを打開するためには、地域内外の交流が重要であり、移住者等の新しい視点を持った人との交流が重要である。外部から広い視野でみている人と地域に詳しい人の関わりにより、地域の人が地域の良さに気付くことができる。グローバルな世界の中で地域を広い視野で考える開かれた地域学が重要。地域文化もその延長線での活性化が求められている。

- 3 高齢者の若返り、意識・ライフスタイルの変容
 - ・近年、高齢者の肉体年齢は10歳以上の若返りを見せており、高齢者自身や世間の人々が「高齢者」と認識しているのは75歳以上の者である。
 - ・団塊の世代以降の世代は、自分なりの価値観を持つ生涯現役を志向する元気な世代（プロダクティブエイジング）であり、そのライフスタイルは、「健康で、時間・気持ち・経済のすべてにおいてゆとりのある生活」や「自由に自分らしく、明るく楽しい生活」を求めものに変容している。
 - ・健康寿命の伸び、年金支給年齢の引上げ、年金支給額の引下げ等により、60代前半を中心に就業意識が高揚し、就業率も年々伸びている。

- ・1980年代に提唱されたラズレットのサード・エイジ論（人生4段階区分論）では、高齢期は、サード・エイジ（定年退職後の自己充実期）とフォース・エイジ（耄碌期）に分かれる。サード・エイジは「人生の最盛期」と位置付けられ、フォース・エイジの始まりをできるだけ遅らせ、サード・エイジをいかに長くするかが課題である。
- ・サード・エイジに向けた取組みは、50歳代半ばから開始すべきである。高齢者の集団の中に50歳代半ばの人が混じることで、集団に活気が生まれる効果が期待できる。

4 国・県等の動き

(1) 生涯学習をめぐる動き

ア 文部科学省

- ・文部科学省は、「長寿社会における生涯学習の在り方について～人生100年いくつになっても学ぶ幸せ『幸齢社会』～」(平成24年3月)において、高齢者を地域が抱える課題を解決する「地域社会の主役」として捉えるとともに、生涯学習の役割を「生きがい創出」や「健康維持」だけでなく、「地域活動」や就労等に活用して地域の活性化に寄与するものとして捉え、そのための環境整備が必要としている。

イ 兵庫県

- ・兵庫県生涯学習審議会は、「団塊世代を見据えた県の生涯学習のあり方について－『生涯現役社会』における学び－」(平成21年3月)において、高齢者の生涯学習を多様化するニーズに対応するものとし、学びを社会参加や就業に生かし、社会を支える高齢者になる取組みが必要としている。

(2) 地方創生施策の推進

- ・人口減少や東京一極集中が進む中で、地域が活力を維持し、県民が将来への希望を持てる地域社会づくりが必要である。
- ・地方創生は、地方（地域）自らが考え、責任を持って戦略を推進し、国は情報支援、人的支援、財政支援を展開するという仕組みであり、全国一律でなく、地方自らが掘り起こした地域資源を活用して、多様な地域社会を形成することが大事である。
- ・高齢期の暮らし方に適した住処の選択やワーク・ライフ・バランスの観点で、地方居住の意識が高まっており、兵庫の多様な地域特性とポテンシャルを踏まえた移住希望の受け皿となるふるさとづくりが必要である。
- ・県も平成27年3月に兵庫県地域創生条例を制定し、県政運営の中核と位置付け、活力ある地域社会を構築するため、「兵庫県地域創生戦略」を策定(平成27年1月。平成28年3月改訂)している。

(3) 学校教育における主体的な学びへの転換

- ・大学教育においては、知識量や技術・技能の習得を重視する従来の学びから、身に付けた知識・技術・技能をいかに活用して問題を解決するかを重視する主体的な学びへの質的転換に向け、情報通信環境が整い、グループ学習等に適した設備や相談スタッフを備えた開放的な学習空間の整備が進展している。
- ・初等・中等教育においては、次期学習指導要領の改訂に際し、主体的、対話的で深い学びの視点が強調され、「社会を生き抜く力」の養成の観点から、学校教育と社会教育との連携を強化した体験活動の充実に重点が置かれている。

(4) 地域と学校教育と社会教育を結ぶ動き

- ・子どもの体験活動の充実においては、地域や家庭が果たす役割が大きいので、地域社会・学校教育・社会教育の三者の連携を強化する取組みは、今後更に重要になる。
- ・当該三者の連携に当たっては、民間団体の活動や企業の社会貢献活動との連携も含めて、一層の連携強化が必要である。

(5) 公民館の減少と新たな役割

- ・公民館は地域の社会教育施設として地域住民が集い、学び、結ぶ場として機能してきたが、現在は施設数及び利用者数が減少している。
- ・今後の公民館は、学校・家庭・地域の三者の連携を促進する「地域住民の課題解決支援に欠かせない学習施設」として、新たな役割を果たすことが期待されている。

(6) 図書館の課題解決支援機能の高まり

- ・社会教育施設としての図書館の意義を高める観点から、大学図書館や公立図書館で地域課題解決支援機能の強化が図られている。

5 グローバル化の進展・異文化交流

- ・人・知恵・モノのグローバルな動きが一層拡大し、経済的格差が拡大する中、一人ひとりが個性と持てる力を発揮し、人と人とのつながりを強め、多様性理解（ダイバシティ）や寛容性を大事にする社会づくりが必要であり、価値観や文化が異なる人との交流等の体験学習が重要である。
- ・共生のための取組みは、あたりまえの交流として実施すべきである。外国人の多くは、日本語の習得に苦勞しており、支援者とのコミュニケーションをよくするため、ことばの学びや相互の学び合いが重要である。

6 技術の普遍化が進む高度情報社会の到来

- ・インターネットや携帯電話が幅広く普及し、情報発信力が飛躍的に高まっており、この高度化・普遍化する情報通信技術を社会の新たな価値創造等に結びつけ、人と人との新たなつながりづくりなどにどう活用するかが重要である。
- ・最も重要なことは、世代間のギャップが大きい情報格差の是正である。高齢者の中には、若年層レベルの情報リテラシーを有する人もいるが、総じて高齢者の情報リテラシーは低く、基礎教育の保障が必要である。特に、あふれる情報の中から正しいものを選び取る能力、デマ情報に惑わされない能力が必要である。

7 地球環境に思いを馳せるライフスタイルへ

- ・再生可能エネルギーの拡大や食糧生産性の向上による持続性の確保など、一人ひとりが地球環境の持続可能性を意識した具体的な取組み（ライフスタイルの提案等）を実践することが重要である。

IV 生きがい創造協会が目指すべき将来像

- ・経済の低成長、高齢化、グローバル化等の社会構造の変化に順応し、健康で生きがいにあふれた人生を送るには、生涯にわたり学び続けることが必要である。いわば、生涯学習こそが、これからの社会を心豊かで幸せに生き抜く上で、最大のリスクヘッジの役割を果たしている。
- ・生涯学習は、リタイア後の長い第2の人生を心豊かにし、また、かつて社会が有していた相互扶助機能に代わる、新たなコミュニティ（セーフティネット）づくりや地域の活力を生み出す力になる。
- ・時間的、経済的な障壁や、身体的なハンディキャップを有する人を含め、すべての県民がよりよい生活を送るために必要な知識等を主体的に学習する機会を提供する先導的な学習拠点となることが、当協会に求められている。
- ・また、元気な高齢者等が支援の必要な高齢者を支える側として活躍することが一層求められ、地域の子どもたちを事故や犯罪から守る見守りや子どもたちが安心できる居場所づくりなどが重要となっている。
- ・より多くの県民が、生涯学習で培った多様な経験や知識を地域のために生かすことができれば、みんなで支え合う活力あるふるさと兵庫の実現に向けた大きな力となる。
- ・以上のことから、当協会が目指すべき将来像を次のとおりとする。

《2025年の協会像》

県民の生涯にわたる学びを応援する先導拠点
～みんなで支え合う活力あるふるさと兵庫の実現～

V 生きがい創造協会の使命と取り組むべき事業のテーマ

1 生きがい創造協会の使命

- ・みんなで支え合う活力あるふるさと兵庫を実現するためには、県民一人ひとりが、自己の学びを自分一人の満足にとどめることなく、他人の役に立つこと、ひいては地域社会のために生かすことに生きがいを見い出すよう、県民の学びを育てていくことが重要である。
- ・当協会は、目指すべき将来像を踏まえ、「高齢者をはじめとするあらゆる世代の県民の生きがい創造活動（生涯学習等を通じた自己実現活動）」を支援していくことを使命とする。
- ・そして、生涯学習等を取り巻く事業環境の変化に対応するとともに、限られた経営資源を有効かつ効率的に活用するため、次の3点に重点を置いた事業展開を図る。

(1) 地域社会を支える学びの支援

～「育てる」学びを支援

- ・少子高齢化、人口減少社会の到来、地域コミュニティの弱体化（相互扶助社会の崩壊）、グローバル化、行財政の悪化など社会経済構造が大きく変わる中、活力があり県民が将来への希望を持てる地域社会を維持していくには、あらゆる層の住民自らが、主体的、自律的に地域に関心を持ち、成熟した市民として、地域を支える役割を担う必要がある。
- ・このため、生涯学習を、教養、趣味、技能等を高める「自己研さんの学び」だけでなく、地域課題の解決など「社会貢献や地域活性化につながる学び」として捉え、それらに相

応しい環境整備や支援を行う従来からの取組みを更に強力に進めていく。

- ・さらに、学びを社会に生かすには、主体的、自律的に考え、学び続ける力が必要である。生涯にわたり学び続ける力、主体的に考える力を育てるには、従来のような「同じ世代」と共に講義を聴く「受動的」・「画一的」・「平行的」な学びではなく、「いろいろな世代」の人が、教える者と学ぶ者、学ぶ者同士として意思疎通を図りつつ、切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場をつくり、学ぶ者が主体的に問題を発見し解を見出す「能動的」・「個別的」・「垂直的」な学びが必要であり、これを支援していく。

(例)ディスカッションやディベートを含む双方向の講義・演習・実習、グループワーク

- ・また、子どもたちが他学年の子ども（異年齢）や大人（異世代）と交流したり、学校以外で活動することが少なくなっている。このような子どもたちに、様々な体験学習や交流イベントなどを通じ、達成感や自己有用感等を体験させ、自己肯定力やチャレンジする心、多様性を受け入れる心などを育て、これからの未来を支え、生き抜く力を備えた青少年として育成していく。

(2) 多様な交流・連携による学び・地域づくりの支援 ～「つながる」学びを支援

- ・高齢者大学や地域づくり活動など、類似事業を行う市町や民間団体等の取組内容を踏まえて、当該地域の実情に応じた連携のあり方を見出し、それぞれの役割を果たすことにより、多様な県民ニーズに効率的に応えるとともに、それぞれが持つノウハウ、人材等の経営資源を相互に活用するなど連携を一層深める。また、民間ノウハウ等を生かした学びの場の提供や多世代の交流活動等を通じ、地域の活性化、ふるさと意識の醸成を図る。

(例) 高齢者大学講師の人材交流、市町高齢者大学の学生が聴講できる講座の設定、リタイア後の生き方に係る各機関の情報を集約・共有したワンストップでの情報提供、民間ノウハウを生かした文化会館等の利活用促進策の検討、ふるさと意識の醸成につながる交流イベント等の実施

(3) 学びを支える経営の健全性・透明性の確保 ～学びを「支える」

- ・安定した事業を推進するため、経営資源（ヒト・カネ）の重点配分、効率的な運営、安定経営に必要な収益確保などに努めるとともに、事業内容等の開示、PR、施設の地域への解放など、地域との連携、結びつきを強め、地域に愛される団体・施設を目指す。
- ・ニュー・パブリック・マネジメント（公共部門における民間企業の経営手法の導入）等による民間の発想（「成果の検証」、「顧客志向」、「マーケティング」等）を導入した運営を目指し、選択と集中を進めるためのターゲットの絞り込みや経営の「見える化」に留意した運営を進めていく。

2 取り組むべき事業のテーマ

(1) 「育てる」学びを支援

テーマ1 生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援

ねらい：県民の主体的な学びを促進し、地域貢献につなぐ。

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ねらい：支えられる高齢者から支える高齢者へ

テーマ3 未来を担う青少年の育成

ねらい：野外活動・体験学習等を通じ青少年の「生きる力」を育む。

(2) 「つながる」学びを支援

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ねらい：各団体の持つノウハウ、人材等を相互に活用し、効率的・効果的な生涯学習活動を展開する。

テーマ5 地域団体等の参画と協働による地域文化活動の支援

ねらい：地域団体等の参画と協働の下、地域の歴史、文化、自然などの地域資源を生かした交流活動等により、新たなコミュニティを構築し、地域の活性化を進める。

(3) 学びを「支える」

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ねらい：安定した事業展開が図れるよう、経営改善、推進体制の充実、経営・事業の見える化に努め、地域に愛される団体・施設へ

VI 6つのテーマで取り組む主な事業

テーマ1 生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援

あらゆる世代の県民自らが主体的に取り組む生涯学習、地域づくり活動など、生きがい創造する活動を支援する。市町等との役割分担を図るため、広域的、先導的な観点からの「情報提供・相談」、「調査研究」、「意識啓発」、「地域づくり活動支援」、「人材養成」等に取り組む。

(1) 生涯学習に係る情報提供・調査研究の充実

ア ひょうごインターキャンパス（兵庫県生涯学習の広場）の充実・利用拡大

- ・高齢者大学、公民館、生涯学習センター等の参加拡大を促進する。スマートフォン用の検索画面を設けるなどの利用者の利便性向上に向けた取組みを今後も進め、サイトの利用拡大やリンク先の拡大を図る。

イ 生涯学習推進アドバイザー派遣事業の拡充

- ・市町や生涯学習関係機関が抱える課題の解決を支援する生涯学習推進アドバイザー派遣事業を拡充する。

ウ 大学等との生涯学習に関する共同調査研究の実施

- ・兵庫大学、兵庫県立大学等との生涯学習に関する共同研究など、他機関との連携により、効果的な調査研究を実施する。

(2) あらゆる世代の生涯学習を支援する公開講座の充実

- ・県民の学習ニーズを踏まえた生涯学習公開講座を開催し、生涯学習に対する意識の高揚を図るとともに、高齢者大学等への関心を高める。
- ・国際問題、経済、音楽、スポーツ、新たなライフスタイル文化等の高度なカリキュラムによる新たな生涯学習公開講座等を開設し、現役世代を含むあらゆる世代を対象とする生涯学習の充実を図る。

- ・有償ボランティア等の就労ニーズに対応したキャリアアップ講座、日々の暮らしの中で必要となる自治会等地縁団体の運営ノウハウやマンション自治会運営のためのマンション管理講座、広域の歴史文化や諸課題を現地実習で学ぶ体験型地域学講座、地域課題の解決に向けた合意形成のスキルアップ講座（コーディネート力、ファシリテーション力、コミュニケーション力等を養う）、ボランティア実践活動体験講座、子育て世代向け実学講座等の新たな生涯学習公開講座を、単位制の短期講座の形式で開設する。
- ・今後の社会はあらゆる世代で支える必要があるため、現役世代の社会参加を誘導する生涯学習公開講座の開設を進め、参加しやすいテーマ、時間、費用等について検討する。

(3) 生活創造活動グループに対する支援の充実

- ・生活創造情報プラザに登録している生活創造活動グループの拡大、活性化のため、マスメディアとの連携による活動内容のPRなど、その認知度の向上を図る。

(4) 生涯学習関係機関職員研修の充実

- ・地域における学習拠点・活動拠点である公民館等の生涯学習関係機関の職員等を対象とする体系的な研修の機会を提供し、地域課題の解決に必要なファシリテート力、コーディネート力等を養成する研修等により、関係職員等の資質向上を図る。

(5) ふるさとひょうご創生塾の充実

- ・活力あるふるさと兵庫の実現のため、県政との協働による自主自律の地域づくり活動の拡充を図り、多世代（価値観の異なる青年・壮年・老年）が入塾して新しい地域リーダーを養成するふるさとひょうご創生塾の基本理念・設置目的の達成を目指す。
- ・地域創生が県政の重点課題とされる中、実践力の高い地域リーダーの養成を目的とするふるさとひょうご創生塾の存在意義は大きく、重要である。しかし、最近では、入塾希望者の減少や塾生の年齢の高齢化・偏在化により、卒塾後のリーダーとしての活動期間が短くなることが懸念されている。また、地域づくり活動は、本来様々な価値観を有する多世代が混在するグループによる相互理解の中で進めることが肝要である。そこで、青年層や壮年層の入塾を促進するため、学習期間、受講料等のあり方を検討する。
- ・人材養成においては、先頭で引っ張るリーダーだけではなく、お互いの学びを促進するファシリテータも養成する。各自の得意分野を生かし、仲間をつくって地域で仕掛ける人材を育てる。

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

(1) 高齢者大学事業の充実

- ・幅広い教養の涵養やクラブ活動を通じた仲間づくりなど、引き続き高齢者の生きがいづくりを支援するとともに、学習成果を地域社会で生かす取組みを強化するなど、高齢者大学事業の充実を図る。
- ・いなみ野学園、阪神シニアカレッジ及び各地域高齢者大学は、立地する地域の特色、施設の状況、学生の学習ニーズ等を踏まえ、それぞれの個性をより生かした先進的な講座運営等を目指す。

ア ターゲットの見直し（入口戦略）

- ・入学資格の年齢制限については、原則 60 歳以上を維持（アンケートによると 60% 以上が現行の年齢制限を支持）しつつ、就業中の入学者予備軍向けのカリキュラムを設け、60 代前半の高齢者の入学を促進する。ただし、今後、各講座の性格や地域性を踏まえた入学資格要件（年齢制限等）の見直しについても検討する。
- ・地域づくり活動の指導者を養成する大学院講座は、入学者確保、社会活動デビュー年齢引下げのため、高齢者大学卒業等の資格要件を撤廃し、年齢制限を緩和した 4 年制大学講座と並立する講座（阪神ひと・まち創造講座と同様の講座）への改変を検討する。
- ・リタイア後の長い人生を生きがいを持って生きていくためには、若い時からの準備が重要であるため、定年退職を控えた就労者、または子育て等への専念が軽減された年代層などをターゲットとするプレシニアカレッジ的講座（高齢者大学とは別建て。夏休みの集中講座や夜間講座）を開設し、将来の高齢者大学への入学を勧奨する。
- ・仕事をしながら学べる「ひょうごラジオカレッジ」への誘導、「聴講生制度」の充実などにより、既存事業をプレシニアカレッジ的講座として活用する。

イ 新たなニーズに対応した学科、カリキュラム、学習方法等の設定（学内戦略）

- ・学科、定員、カリキュラム全体の見直し、修了年限、受講料等の見直しは、平成 31 年度以降入学者を前提として平成 29 年度中に行い、平成 31 年度以降の募集要項に反映させる。
- ・活動意欲あふれる「現役意識」の高い高齢者の多様な学習ニーズに対応するとともに、学びを地域社会に生かす取組みに資するカリキュラム等を設定する。また、県内各地域の特性を生かしたカリキュラムを設定する。
（例）学生自主企画講座
- ・体系的・総合的な学びができるカリキュラムの設定を行うとともに、高齢者向けに特化しないカリキュラム（国際問題、経済、音楽、スポーツ、新たなライフスタイル文化等）の導入を進める。
- ・有償ボランティア等の就労ニーズに対応したキャリアアップ講座を夏休みや日曜日を利用した短期講座、出前講座等として導入する。民間講座との競合を避け、連携・協力できる体制づくりに留意する。
- ・自治会等地縁団体の運営ノウハウやマンション自治会運営のためのマンション管理に係る短期講座の導入を進める。
- ・新たな講座として、現地で学ぶ地域学（居住地のみならず、広域の歴史文化や諸課題を現地実習で学ぶ）などの体験型講座、グループ学習等の双方向の学習方法、コーディネーター力、ファシリテーター力、コミュニケーション力等の課題解決に向けた合意形成のスキルアップ講座、NPO 等と連携したボランティア実践活動体験講座、子育て世代向け実学講座等の導入などを行う。
- ・これらの新たな講座の導入に際しては、受講者の年齢制限を設けない生涯学習公開講座として開設し、高齢者と現役世代が同じカリキュラムを履修することで、高齢者の学習にハリを生み、若返りや生涯現役意識の涵養に資することとする。
- ・さらに、当該講座の履修結果を高齢者大学のカリキュラムの中で単位認定できるようにして、高齢者大学の魅力アップにつなげていく。
- ・また、高齢期の生活上の不安を減少させる健康づくり、介護等の福祉サービス利用

法、年金制度、災害対策等の講座や自分の人生、ふるさと、老いること等への肯定感を育む自分史、地域学、終活等の講座の導入・充実を検討する。

- ・いなみ野学園、阪神シニアカレッジ、各地域高齢者大学のそれぞれの運営委員会での意見、学生ニーズや体制の違い等を踏まえたカリキュラムの差異化を図る。
- ・多世代、とりわけ、高齢者と同様に居住地域で過ごす時間が長い子育て世代（子どもと親）との交流活動を促進し、「おじいちゃん先生・おばあちゃん先生」の養成・派遣等により高齢者の経験や知識を伝えるのと交換に、若い世代の活力、子どものもつ癒し効果を受け取るなど、現役世代や地域社会とのつながりを深める。
- ・高齢者の支援を求める市町との連携を深めるため、支援者となる高齢者大学の学生をリクルートする講座の導入を検討する。

ウ 学習成果を地域社会で生かす橋渡し機能の強化（出口戦略）

- ・高齢者大学における学びを社会に還元する橋渡しをするため、地域活動支援センターを核に、ボランティアセンターやNPO等の地域づくり活動団体等との連携強化など、橋渡し機能の充実を図っていく。
- ・地域活動支援センターの体制強化のため、同窓会等を通じて学生OBを地域活動支援センター運営サポーターとして採用して経験を積んでもらい、コーディネーター役として育成し、高齢者が高齢者の活動を支援する仕組みを構築する。
- ・活動団体・グループの育成を図るため、学生自治会、同窓会、同窓会地域支部、クラブ、サークル、個別活動グループ等の連携を深め、活動状況、活動ノウハウ等の情報を共有し、それぞれの団体の活動レベルや方向性に応じた無理のない効率的な活動につなげていく。
- ・いなみ野学園研究生制度の充実を図るため、話し方研修等により表現力の向上を図るとともに、地域課題解消にもつながる講義の構成・方法の工夫等により、地域づくりコーディネーター的役割を担えるよう育成していく。また、地域活動支援センターを通じた講義場所の確保等を進める。
- ・高齢者大学の学びを生かす場として、高齢者大学の運営等を支援する高齢者大学等運営サポーターの拡充を図る。

(2) 高齢者放送大学事業の充実

- ・引き続き、高齢者に関心の高いテーマについて、著名な講師陣により発信する質の高いラジオ講座を運営し、幅広い県民に生涯学習の機会を提供するとともに、中央・地方スクーリングや放送大学友の会の活動を通じた学友との交流の場を提供するひょうごラジオカレッジの魅力積極的に発信し、受講生の拡大を図る。

(3) 高齢者の交流・健康づくり活動の広域的展開・場の提供

- ・学ぶ高齢者のつどいの開催、ツウゲットボール等のシニアニュースポーツの普及、全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手派遣など、高齢者の交流・健康づくり活動を広域的に展開する。
- ・高齢者園芸センターの運営、高齢者陶芸の村の運営、高齢者手づくりの店の運営など、高齢者の活動の場を引き続き提供するとともに、利用者の増加を図るため、分かりやすい施設名への変更、イベントの開催、施設の改修、パブリシティなど、知名度向上に努める。

テーマ3 未来を担う青少年の育成

(1) 生きる力を育む体験教育の充実

- ・長年にわたり野外活動等による体験教育に取り組んできた嬉野台生涯教育センターを体験学習・野外活動を先導する拠点として位置付け、野外活動学習をはじめとする青少年等に対する体験学習の充実を図り、青少年等の生きる力を育てていく。
- ・ひょうご冒険教育（HAP）事業やうれしの台ユースセミナーの実施、自然学校の受入れや学習プログラム作成など、嬉野台生涯教育センターの持つ広大で自然豊かな施設や蓄積された事業ノウハウ等を生かした事業を引き続き実施するとともに、一層の認知度向上に努め、利用者拡大を図る。
- ・ひょうご冒険教育講習会、野外活動指導者養成講座、全県野外活動フォーラムなど、野外活動・体験学習の指導者養成事業の受講者拡大を図る。
- ・企業の新人教育、大学生のオリエンテーションなど、大人向けの体験学習メニュー（HAP等をアレンジ）の充実を図り、受講者拡大を図る。
- ・ひょうごロシアハバロフスク少年少女交流事業など、異文化との交流を進める。

(2) ふるさと意識の醸成

- ・地域の特色を生かした事業を展開し、青少年のふるさと意識の醸成を図る。

（例）[いなみ野学園等]

高等学校における問題解決型学習の一環として、いなみ野学園研究生等が講師を担う地域学講座の開催と高校生による地域づくり提案の促進

[嬉野台生涯教育センター]

「北播磨ふるさと発見連続講座」の開催とその成果を踏まえた「北播磨学読本」の作成・配布を内容とする「北播磨人（きたはりまびと）意識醸成事業」の展開

[但馬文教府]

但馬の日常や自然等をテーマとした小中学生の作文・詩集「但馬の子ども」の発行など、子どもたちが地域に関心を持つ事業を展開

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

生涯学習や地域づくり活動に対する多彩な県民ニーズに応えるため、多様な生涯学習関係機関、活動団体等とのネットワーク化や連携を進める。

(1) 大学等学校教育機関との連携

- ・兵庫教育大学、兵庫県立大学、兵庫大学、豊岡短期大学、龍野北高等学校など県内の大学、高等学校等との連携により、連携講座の開設、生涯学習指導者育成研修の実施、実習場所としての施設の相互活用、学園祭などへの参加を通じた世代間交流事業等を実施していく。
- ・今後も新たな連携先の開拓を進めるとともに、共同研究・調査、地域づくり活動イベント等の共催など、連携内容の充実を図っていく。

(2) 公民館等市町関係機関との連携

- ・公民館が主催する生涯学習講座等の講師の紹介、生涯学習推進アドバイザーやいなみ野学園研究生の派遣などにより、市町の生涯学習事業を支援する。

(3) 博物館等社会教育機関との連携

- ・兵庫陶芸美術館、県立考古博物館等と連携し、多様な学習ニーズに対応する事業を展開するとともに、施設の利用促進に寄与する。
- ・課題解決支援機能（地域情報の提供、調べ学習の支援、交流の場の提供等）の充実が図られた大学図書館や公立図書館との連携を進める。

(4) 自治会等各種地域団体との連携

- ・地域学校協働本部が実施する地域学校協働活動（見守り等学校支援活動、放課後子ども教室等）への高齢者大学学生、OB等の参加を促進する。
- ・JR 東加古川駅北東部にある文教施設（加古川総合文化センター、兵庫大学・兵庫大学短期大学部、いなみ野学園など）が連携して「生涯学習のまち」の創造を図る「東加古川文教施設連携構想」に参画し、協働事業の推進等を図る。

(5) 高齢者大学等関係組織との連携

- ・いなみ野学園、阪神シニアカレッジ及び各地域高齢者大学の学生自治会や「いなみ野学園同窓研修会」のような高齢者大学の卒業生等で構成される団体並びに嬉野台生涯教育センターの活動の賛同者の親睦組織である「うれしの友の会」やひょうごラジオカレッジの本科生、聴講生及び生涯聴講生が居住地ごとの30のブロックに分かれて結成した親睦組織である「ラジカレ友の会」などの協会事業に起因する組織との連携を強化する。

(6) 広域ネットワーク組織との連携

- ・兵庫県高齢者学習研究協議会、兵庫県公民館連合会等の広域ネットワーク組織との連携を強化する。
（例）社会教育関係職員等研修の共催・後援、生涯学習関係調査研究の共同実施
- ・全国明るい長寿社会づくり推進機構連絡協議会等の全国ネットワーク組織や関西シニア大学校連携等の広域を越えたネットワーク組織との連携を強化する。

(7) NPO、社会福祉協議会等地域活動団体との連携

- ・ボランティア活動の場の提供、実践体験講座の支援等に取り組むボランティアセンターを運営する市町社会福祉協議会、NPOを育成する中間支援団体等との連携を進める。

(8) 各施設の魅力を生かした地域住民との交流

（例）[いなみ野学園]

「子ども陶芸教室」、「いなみ野の森を探検しよう」、「子ども音楽会」、「1日いなみ野保育所」、「おじいちゃん、おばあちゃんに行く遠足」、「暮らしに役立つ日曜講座」、「今さら聞けないシリーズ（家事、趣味等）」、「花卉の名前講座」等や映画ロケ地としての活用

[高齢者園芸センター]

- 「幼稚園生いもほり大会」、「漬物講習会」
[嬉野台生涯教育センター]
- 「うれしの春のフェスティバル」、「うれしの世代間交流事業」、「北播磨冒険
広場たまり場事業」
[但馬文教府]
- 「みてやま朝市」、「そば打ち体験」、「郷土料理講座」

テーマ5 地域団体等の参画と協働による地域文化活動の支援

文化会館等で展開してきた地域文化活動の振興、地域文化活動団体への支援を更に強化するなど、地域団体等の参画と協働による地域づくりを推進し、青少年の感性（想像力、表現力等）を育むとともに、住民のふるさと意識の醸成や居場所・交流の場づくりなどを進め、みんなで支え合う地域づくりにつなげていく。

(1) 地域文化事業の充実

- ・従来から取り組んできた各地域の伝統芸能、音楽、文芸、美術、スポーツ等地域文化の振興を図る発表会、コンサート、公募展、イベント開催等について、引き続き地域の関係団体、住民の参画と協働により事業を継続していく。
- ・更なる充実を図るため、地域づくりの経験を有する地域団体、NPO、民間事業者等のノウハウを活用するなど、時代の流れを踏まえた新たな地域文化活動の支援を進める。

(2) 文化会館等の特性を生かした利用促進

- ・文化会館等は、地域の特色ある文化活動の拠点として市域を越えた地域文化団体の事務局を担うなど、伝統文化の伝承活動、住民のふるさと意識の醸成、広域交流のたまり場としての役割などを果たしてきた。
- ・今後も広域地域文化拠点として、日常的、継続的な賑わいを創出するため、地域の文化団体、地域団体、生活創造活動グループ、高齢者大学学生・OBで構成する団体、NPO等の参画と協働による活性化事業を実施し、利用促進を図る。

(例) [嬉野台生涯教育センター]

北播磨人（きたはりまびと）意識醸成事業、北播磨冒険広場たまり場事業等

[但馬文教府]

但馬ふるさと芸術文化祭、みてやま親子ふれあいフェスタ等

[西播磨文化会館]

にしはりまキッズフェスティバル、播磨「歴史・地域学」講座等

[淡路文化会館]

日本遺産認定記念国生みの島フェスティバル、日本遺産認定記念セミナー等

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

今後とも、県民の主体的な学びを先導する生涯学習事業を、県民の信頼を得ながら、安定的、持続的に進めていくため、引き続き選択と集中の徹底、コスト削減に取り組むとともに、安定財源の確保を図るなど、経営の健全性・透明性の確保に努める。

(1) 自主財源等安定した収入の確保

- ・県からの委託料や補助金が削減され続ける中、高齢者大学等主要事業を安定的に実施するため、受講料等自主財源の確保を図る。

ア 高齢者大学入学者の確保

- ・応募者数が減少傾向にあることから、魅力的なカリキュラムの設定、施設の改修など、高齢者大学の魅力向上を図り、入学者定員を確保する。
- ・また、入学者募集の際に効果的な口コミによる周知を図るため、学生・OB等へ的高齢者大学に関する定期的な情報提供を行うほか、PR効果の高いホームページ、オープンキャンパス等の充実、マスメディアの活用など、効果的なPRに努め、認知度の向上を図る。
- ・各高齢者大学において、学生のニーズや満足度を把握するため、定期的にアンケート調査を実施する。

イ 適正な受益者負担の徴収

- ・協会事業に係る経費について、適正な受益者負担を求める。

ウ 高齢者手づくりの店の収益の確保

- ・店舗のレイアウトの改善（きれい・広い・見やすい等）、売れ筋商品への入れ替えオリジナルグッズの開発などにより、売上げの増加を図る。

エ 高齢者陶芸の村の収益の確保

- ・送迎バスの運行や老朽施設の改修など、利用者の利便性向上を図り、利用者の増加を図る。

オ 高齢者園芸センターの収益の確保

- ・地域住民向けイベントの開催等により知名度向上を図るとともに、クラブハウスの整備等による利用者の利便性向上を図り、貸農園の利用促進を図る。
- ・いなみ野学園園芸学科の学生・OB等との連携により、農産物の栽培体制の整備を図り、販売拡大を目指す。

カ 法人等からの寄附の拡大

- ・寄附受納の仕組みを整備し、法人等からの寄附を受けやすくする。
- ・ホームページのバナー広告や募集要項等パンフレットへの広告掲載の勧誘を行う。

キ 外部資金等の導入

- ・各事業の実施財源として、国、独立行政法人、民間企業等による助成制度の積極的活用を図る。

(2) 施設の改修による利便性等の向上

- ・利用者の利便性・快適性を確保して利用者増を図るための施設改修を計画的に進める。施設改修計画は、各施設の状況、所要経費等を勘案し、中期的な全体計画として策定する。

(例) [いなみ野学園]

トイレ棟改修・マイクロバス更新・LED照明導入・食堂棟改修・駐車場舗装・樹木医による植栽診断・ゲートボール場転用による実習果樹園整備

[阪神シニアカレッジ]

宝塚市内に新学舎建設（平成31年度供用開始）

[嬉野台生涯教育センター]

汚水配管改修・合併浄化槽調整ポンプ取替え・エレベータ安全装置設置

[但馬文教府]

活動体験館の早期建替え・天井等不燃化整備・避難梯子設置・落雪防止対策・駐車場拡充整備・ミーティングルーム改装（ラーニングcommons設置）・公道沿い樹木伐採

[西播磨文化会館]

生活創造活動グループ用印刷機更新・グラウンド設備・外階段手すり整備

[淡路文化会館]

敷地内道路拡幅整備・多目的グラウンド舗装・体育館前駐車場舗装・空調設備の各室個別設置

(3) 職員の適正配置等による運営体制の整備

- ・長期的視点で事業を計画的、継続的に執行することができるよう職員の適正配置等による運営体制を整備するとともに、高齢者大学のクラス運営等のルーティン業務を運営サポーター等による自立的運営に移行するなど、高齢者が高齢者を支援する体制を拡大する。

(4) 協会事業の透明性確保・広報の充実

ア 協会事業の見える化

- (7) 協会ホームページで、組織・収支状況・経営方針・事業内容・イベント情報などを定期的に発信する。
- (イ) ニュースレター「生きがい通信」の充実を図る。
- (ウ) ブランド力の向上を図る。
(例) 各施設の名称の見直し、ロゴの作成、シンボルカラーの見直し、看板等のデザインやサインの統一等

イ マスメディアとの連携

- ・ラジオ関西、神戸新聞等のマスメディアの協力を得ながら、当協会及び協会事業の知名度向上、地域づくり活動の場の確保を図る。
- (7) ラジオ番組「いなみ野シニアの元気ニュース」、地域ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」等を活用して協会事業の紹介を行う。
- (イ) 記者発表等マスメディアの積極的活用を図る。

(5) 経営目標（指標）の設定

- ア ひょうごインターキャンパスアクセス数:730,000件以上(県設定) [H28:581,242件]
- イ 生涯学習リーダーバンク登録者数:255人以上(県設定) [H28:234人]
- ウ 高齢者大学等在学者数:5,420人以上(県設定) [H28:5,004人] (丹波を除く。)
- エ 高齢者大学卒業者・修了者数:毎年840人 [H28:713] (丹波を除く。)
- オ ふるさとひょうご創生塾卒塾生:毎年30人(県設定) [H28:20人]
- カ 高齢者大学学生の満足度(アンケート定点調査):満足80%以上 [H27:92.6%]
- キ 文化会館等利用者数:年390,000人以上 [H28:358,486人]
- ク 生活創造活動グループ登録数:400グループ以上 [H28:368グループ]
- ケ 地域活動支援センター登録団体数:70団体以上 [H28:58団体]
- コ 経営収支:黒字 [H28 黒字]

[参考] 収支決算(H26～H28)

		(単位:千円)			
区分		H26	H27	H28	
一般正味財産増減の部	経常増減の部	経常収益	635,851	703,757	646,065
		基本財産等運用益	1,534	1,409	590
		事業収益	50,979	26,910	47,461
		受取補助金等	403,370	509,774	426,123
		受取負担金	171,316	158,245	163,672
		その他	8,652	7,419	8,219
		経常費用	632,772	691,081	638,645
		人件費	307,252	321,029	329,146
		運営費	322,020	366,648	306,270
		その他経費	3,500	3,404	3,229
	当期経常増減額(収支差)	3,079	12,676	7,420	
	経常外の部	経常外収益	242	0	158
		経常外費用	12	0	454
		当期経常外増減額(収支差)	230	0	-296
法人税・住民税・及び事業税		1,286	1,256	1,846	
当期一般正味財産増減額(収支差)		2,023	11,420	5,278	
一般正味財産期末残高		97,402	108,822	114,100	
指定正味財産の部	受取補助金・寄付金等	0	9,057	17,591	
	一般正味財産への振替額	827	572	5,391	
	当期指定正味財産増減額	△ 827	8,485	12,200	
	指定正味財産期末残高	251,784	260,269	272,469	
正味財産期末残高		349,186	369,091	386,569	

VII 経営ビジョンの事業体系

ー将来像実現に向けた施設・部門別の具体的方策（アクションプラン）

1 いなみ野学園

(1) 目指すべき姿

「シニア生活を応援する“いなみ野元気スタイル”」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ1 生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援

ア 生涯学習公開講座【新規】

- ・定年退職を控えた就労者、または子育て等への専念が軽減された年代層を対象にした「いなみ野セカンドライフ公開講座」の展開により、60歳代前半世代の高齢者大学入学に資する。
- ・講座の内容は、予定する「ポスト団塊世代の在園生ニーズ調査」や有識者等の意見を参考にしつつ、セカンドライフ予備層の多くが学び直したいとする医療や福祉、歴史・地理、健康・スポーツなどに関するものを想定する。
- ・講座の開設は、いなみ野学園休講期間または休日や平日夜間など対象者が参加しやすい日時とし、カルチャーセンターや金融機関、農協など企業・団体との共催を積極的に模索する。

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ア いなみ野学園大学講座【拡充】

- ・高学歴化や価値観の多様化が進むポスト団塊世代のニーズに柔軟かつ機動的に対応えられる学科編成や学習課程・方法への見直し等を行い、時代に対応したシニアの学びの場を提供し、入学者の増加につなげる。
- ・見直しを行うため、有識者等による「学園カリキュラム検討懇話会（仮称）」を設置する。同懇話会は、協会評議員会および理事会の構成員から選抜した者と企業経営者等による構成とする。
- ・懇話会は、学園の概要、現状や課題に関する総括説明の後、学園としての方針、方針への意見聴取、懇話会としての提言とりまとめを内容として運営する。
- ・学園の方針については、①設置学科の改編 ②弾力的な学習年限の導入 ③ニーズに対応した講座の設定を柱に検討する。
- ・新たな講座として、年間受講日に限定せず、60歳代前半世代の学習意欲に応えられるような就労へのキャリアアップや自治活動に備えるノウハウ修得の講義をはじめ、広範な地域の歴史・文化や課題を現地で学ぶ講義やシニアの地域づくりを自治体首長が自ら呼びかける講義などの体験型または交流型の開設を想定する。
- ・改訂された学科と学習課程は、31年度から全ての入学年次受講生に適用する。

イ いなみ野学園大学院講座【拡充】

- ・名実ともに「地域づくり研究科」にふさわしいカリキュラムとすべく、入学資格要件を含めた見直しについて、上記懇話会からの提言を踏まえて検討する。

ウ 聴講生制度【拡充】

- ・現役世代をはじめとする一般成人の比率を高め、利用者増を図るため、聴講講義の参加者募集の公表を適時適切に行うとともに、民間カルチャーセンターや公民館等の利用者に向けた案内ポスター・リーフレット等を配付・掲示する。

エ 研究生制度【拡充】

- ・生涯学習施設の講師・指導者を輩出しようとする研究生制度の目的を実現するため、公民館等への制度周知と行事案内の広報に努める。また、地域づくり活動をコーディネートする施設指導者として活躍できる講義を導入する。

オ 学園運営サポーター【拡充】

- ・高齢者大学での学習や活動の成果を活かす場として学園の学科・事業の運営を支援するサポーターの配置を拡充する。
- ・新たに健康づくり学科と文化学科に研究生から登用したサポーターを配置し、学習施設での指導者としての研鑽にも資する。
- ・地域活動支援センターのサポーターには、学園生・卒業生等と地域とのボランティア活動のコーディネーターとしての活動を促す。

カ 地域活動支援センター【拡充】

- ・地域づくり活動グループの活動を広報し、市町ボランティアセンターとの連携を深めるため、地域活動支援センターのニュースレターを29年度から四半期ごとに発行するなど情報提供に努める。
- ・施設や市町ボランティアセンターからの活動オーダー情報については、センター運営サポーターを中心にしたマッチング等の調整により実現するとともに、特定の個別施設への清掃や傾聴など労務提供型活動の実現を検討する。
- ・高齢者大学生による地域づくり活動を促進するため、各学年の共通講座として有識者またはNPO 法人関係者等を講師とした講義を導入する。
- ・地域づくり活動グループの活動発表の場やシニアの地域づくり活動の現状を考える機会として、フォーラムなどの行事を年に1回は開催する。

キ 兵庫県高齢者学習研究協議会・学ぶ高齢者のつどい

- ・県下各地の高齢者大学や高齢者教室で学習する高齢者が一堂に会し、日頃の学習成果の発表と研修を通じて学習を深め、学ぶ高齢者の交流の輪を広げることを目的として開催する。

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ア 施設の魅力を活かした地域住民との交流【新規】

- ・学園の魅力ある資源を活かした陶芸および園芸の地域開放型講座を開催する。
- ・「子ども陶芸教室」を継続実施するとともに、子育て等への専念が軽減された年代層を対象とした「いなみ野日曜陶芸」としての有料での連続開催を検討する。

- ・「いなみ野日曜園芸」としてプランター栽培から庭木剪定までの都市住民向けの有料シリーズ開催を検討する。

イ 東加古川文教施設連携構想【拡充】

- ・東加古川地区を生涯学習のまちとし、地域学校協働活動にも取り組もうとする「東加古川文教施設連携構想」の推進組織に協会として参画し、啓発フォーラムの開催や平成29年夏に選考されるキャッチフレーズを活かした地域のブランドづくりに協力する。学園としては、学園祭等イベントの共同啓発リーフレットの作成・配布やイベントのスタンプラリー、施設開放デー等の連携事業の実施に取り組む。

ウ 同窓研修会との連携【新規】

- ・同窓研修会を高年齢者大学卒業生の生涯学習機関と位置づけ、講師としての研究生等の紹介を通じて研修活動の充実に協力する。あわせて、協会の協働先として、事業実施に協力を求めることとし、東加古川文教施設連携構想の事業例の一つである「子育て応援事業」の共同実施を働き掛ける。

エ 県内文化施設との連携（あいカード）

- ・高齢者大学の学生にあいカードを配布し、県内文化施設の利用を促す。

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ア シニア向け情報提供番組【拡充】

- ・シニアによるシニアのための情報提供ラジオ番組については、学園生による企画・取材・出演という制作方法を基本としつつも、他の県高齢者大学生の参画を得た広範なシニア向け情報番組とし、生涯学習への意欲喚起に努める。
- ・放送に当たっては、協賛者が不可欠であることから、前年度を上回る協賛者の確保に努める。

イ いなみ野学園情報提供番組【新規】

- ・地域ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」の協力を得て、大学院講座学生の自主制作により放映している番組「いなみ野学園情報」への応援を通じて、学園行事等の情報発信に努める。

ウ オープンキャンパス【拡充】

- ・学園の見学を通じて入学志望を高めてもらうため、オープンキャンパスを開催する。
- ・12月と1月に講義参観とクラブ見学をそれぞれ2回ずつ延べ4回開催するとともに、設定日に都合がつかない希望者に配慮して、入学生募集期間には随時、職員が見学に対応する。

2 ひょうごラジオカレッジ

(1) 目指すべき姿

「『学び続ける人』は輝いている」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ア 高齢者放送大学

- ・県内に住む高齢者に広く生涯学習の機会を提供するため、ラジオ講座事業を実施する。学習内容については、「仕事をしながら学べる」ことから、経済や世界情勢など現役世代が興味・関心を持っている分野を学習内容に更に取り入れていく。これによって、高齢者にとって、一見「ひとごと」と思える問題が実は大きく作用しているという現実への気づきに結び付けていく。
- ・学生募集のツールとして「ひょうごラジオカレッジで私が学んだこと」等番組で放送された内容をチラシやホームページで発信していく。具体的には、耳で聴き取りメモを取り、考えをまとめて文章化したのち葉書1枚にまとめるというアナログな作業を通じて得られる学びの質の高さを、経験者のことばで伝えるなど、訴求力のあるPR手法を取り入れる。

イ 中央・地方スクーリング

- ・学生が日頃感じている学習への興味・関心等を学生同士の交流により共有できる場として開催する。
- ・特に、各友の会が中心となって準備を進める地方スクーリングでは、中央スクーリングに参加することが難しい学生のニーズに配慮して内容を決定する。具体的には、ラジオカレッジに出演経験のある講師を地方スクーリングの講師に迎えて同一のテーマで学ぶものとし、加えて各地方スクーリング独自のテーマ講座も設定して、参加者の満足度を高く保つ。

ウ ラジオカレッジサポーター

- ・学生数の減少によりサポーター数も減少しているため、今後は近隣地区の友の会総会において職員から直接呼びかけて勧誘するなど、新規サポーターの確保を図る。
- ・サポーターの活動範囲をテキスト配送からイベントでの受付、写真記録、会場整備など、サポーターや友の会と協議しながら拡大する。

エ 兵庫県高齢者学習研究協議会・学ぶ高齢者のつどい

- ・放送大学ならではの「学びの魅力」を発信できる発表を募集し、「学ぶ高齢者のつどい」での放送大学への注目度を高める。

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ア ラジカレ友の会【拡充】

- ・高齢者放送大学の「学びの経験者」として「ラジカレ応援団」ともいえる友の会の活性化が重要な課題であり、友の会の組織率向上の手段を検討し実施していく必要がある。そのためには各会長への感謝状贈呈規定の策定や、学生募集活動での成果評価、新友の会バッジ等一体感を醸成できるグッズの検討など、友の会の意向を確認しながら実施していく。

イ 県内文化施設との連携（あいカード）

- ・ひょうごラジオカレッジの学生にあいカードを配布し、県内文化施設の利用を促す。
- ・当該県内文化施設を各地区友の会の「学びの場」として活用する。

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ア ホームページの運営

- ・放送内容の迅速な更新を実施し、講義内容の魅力を確実に広める。

3 阪神シニアカレッジ

(1) 目指すべき姿

「阪神シニアカレッジはいつだって、明日への“ときめき”を忘れない！」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ1 生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援

ア 生涯学習公開講座【新規】

- ・甲子園大学と連携した“老若交流”公開講座を開催する。
- ・地域活動支援センターを核に、県下の活動グループを巡回し相互支援をめざす、学生活動グループ主導の“まちづくり”リレー講座を開催する。

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ア 学舎統合による魅力の向上【新規】

- ・学舎統合による学生間をはじめ地域住民との相互交流の活性化を受け、高齢者による明日に向けた豊かな地域創生の拠点としての魅力を広く訴求し、入学希望者の増加を図る。
- ・学生自らが学舎活用のルールづくりや、文化祭をはじめとする学校行事の企画、立案に参画できるよう、学生会やクラブ代表者会の組織化を進める。
- ・さらに新しい活動環境下でのクラブ運営をより充実したものとするため、クラブ代表者会を中心に、施設の利用方法などのソフト面でのルールづくりを進める。
- ・園芸学科で屋上農園を活用した“ポタジェ（フランス式家庭菜園）”の導入を検討するほか、健康学科や国際理解学科でもこれまでから培ってきたその伝統を生かし、統合後も周辺の高齢者大学とは一線を画した、学生のニーズに沿いながらも神戸・阪神間の地域特性を生かしたより専門性の高いカリキュラムづくりを進める。

イ 阪神シニアカレッジ大学講座【拡充】

- ・園芸学科については、平成31年度の校舎移転・集約化に伴う屋上農園での実習を契機に、果実や野菜、草花などを混植し実用と鑑賞の両目的を兼ね備えた“ポタジェ”（フランス式家庭菜園）の概念を取り入れたカリキュラムの導入を検討する。
- ・健康学科、国際理解学科については阪神間の地域特性に応じ、新たな学究成果を取り入れた学際的な講座運営に留意していく。
- ・新たに学生自治会を立ち上げ、カリキュラムの編成等のカレッジ運営に生かす。

ウ 阪神ひと・まち創造講座【新規】

- ・地域活動支援センターを中心に、活動グループ支援のための汎用データベース（助成制度、活動場所、地域人材バンクなど）を構築する。
- ・採算の取れる活動を意識した実践プログラムを導入。現場主義を徹底する。

エ 聴講生制度【拡充】

- ・聴講生にカレッジライフの楽しさを体験していただき、募集要項を送付するなど学生募集につなげていく。
- ・校舎の移転・集約化に伴い、聴講可能枠を広げ増員する。

オ 地域活動支援センター【新規】

- ・地域活動支援センターを中心に、活動グループ支援のための汎用データベース（助成制度、活動場所、地域人材バンクなど）を構築する。
- ・地域活動支援センターを核に、県下の活動グループを巡回し、市町ボランティアセンターやNPO等との連携を図りながら、相互支援をめざす、学生活動グループ主導の“まちづくり”、リレー講座を開催する。

カ 兵庫県高齢者学習研究協議会・学ぶ高齢者のつどい【拡充】

- ・阪神シニアカレッジのクラブ活動とも協調しつつ、新たなルールを検討して阪神ブロック構成員からの作品展への応募を募っていく。

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ア 甲子園大学との連携【拡充】

- ・健康学科のグループ学習の一環として、甲子園大学の研究プログラムと連携した講座を組み入れる。
- ・甲子園大学と連携した“老若交流”公開講座を開催する。

イ 県内文化施設との連携（あいカード）【拡充】

- ・高齢者大学の学生にあいカードを配布し、県内文化施設の利用を促す。
- ・「あいカード」協力団体と連携した現地講座の開催や、活動グループによる解説ボランティアとしての参画など、実践学習のフィールドとしての活用を検討する。

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ア オープンキャンパス【新規】

- ・校舎の移転・集約化に伴い、交流スペース部分は常時オープンキャンパスとするほか、年度初めの「クラブ紹介」時や秋の「文化祭」開催時には地域内の住民に広く参加を呼びかける。

イ ホームページの運営【拡充】

- ・平成29年度の新入生アンケートの結果からも、学生の募集に際してホームページは「口コミ」に次いで有効な広報媒体であることから、情報提供のツールとして一層強化していく。
- ・ホームページの運営管理については、「パソコンクラブ」の協力方法を模索していく。また、参加者が多い同クラブによる学生向けパソコン教室に対して、一層の支援策を検討していく。

4 嬉野台生涯教育センター

(1) 目指すべき姿

「一生涯、学ぶ心は嬉野台！」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ1 生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援

ア 生涯学習情報の収集と提供

- ・県民の生涯学習を支えるため、うれしの生活創造プラザにおいて、市町等が発行するイベント等情報刊行物をはじめとした生涯学習に関する情報を収集し、提供する。

イ 生涯学習公開講座

- ・市町、大学、民間の取組みとも連携しながら、県民ニーズに対応した生涯学習の企画・推進を行い、学習の場の提供を行う。

ウ 企業、社会教育団体等の研修等

- ・企業(新人、管理・監督職研修)や社会教育団体(青少年育成、地域づくり活動等)等の活動の場として活用を図る。

エ うれしの春のフェスティバル【拡充】

- ・例年、5月4日に、嬉野台生涯教育センターを広く一般に開放し、芸術・文化・スポーツイベントの実施、地域における活動団体の交流などを行うフェスティバルを開催するとともに、HAP 体験会の新たな実施などイベントの拡大を図るなど一層の内容の充実を図る。

オ うれしの世代間交流事業

- ・夏休み期間の小学生と保護者を対象に、うれしの学園生涯大学クラブ員による工作教室を開催することで、多世代交流の促進を図る。

カ うれしの生活創造プラザ(生活創造情報プラザ)の運営

- ・芸術文化、環境、消費生活、健康、福祉等の様々な分野にわたる生涯学習、地域づくり活動等、成熟社会にふさわしい豊かな生活を創造するための県民による主体的な活動(生活創造活動)の拠点施設として運営する。
- ・生活創造活動の促進を図るため生活創造活動グループの活動を支援し、グループ間の相互交流を推進するとともに、うれしの生活創造応援隊による暮らしに関する情報の収集・発信(生活創造しんぶん「ぐぐっと!北播磨」の発行等)を行う。加えて、平成28年10月から設置している展示コーナーにおいては、地域の情報や県民の学習成果の発表の場となるよう各種展示会を開催する。

キ うれしのまるごとギャラリー

- ・当センターを活動拠点としているグループや団体等の作品等を年間を通じてセンター内廊下等に展示し、広く県民に発表する場を提供する。

ク 県民交流広場事業等のネットワーク化支援事業

- ・県民交流広場をはじめとするコミュニティの広域的なネットワーク化を支援する。

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ア うれしの学園生涯大学

- ・生涯学習の一環として、高齢者の生きがいづくりと地域づくり活動実践者の養成を図る学びと実践の一体化をめざして、総合講座と専門講座の2つの講座を開設する。

イ うれしの学園生涯大学大学院【拡充】

- ・4年制大学講座での学習を基礎として生かし、地域の課題を専門的・実践的に学び知識や技能のステップアップを図るとともに、スキルアップ自主企画講座の柔軟な設定やそれに伴う4年制大学講座の受講など自由と自主性を尊重したカリキュラムにさらに取り組み、主体的に地域社会に関わる意欲を持った地域づくり活動の担い手を養成する。

ウ 兵庫県高齢者学習研究協議会・学ぶ高齢者のつどい

- ・東播磨・北播磨地域の高齢者大学や高齢者教室で学習する高齢者が一堂に会し、日頃の学習成果の発表と研修を通じて学習を深め、学ぶ高齢者の交流の輪を広げることがを目的として開催する。

テーマ3 未来を担う青少年の育成

ア ひょうご冒険教育(HAP)

- ・県下で唯一の施設の体験による冒険活動を通じて、こころ豊かでたくましい人間を育成することを目指し、信頼や協調性を高める「チームづくり」の機会を提供する。
- ・参加者の年齢や体験グループの成熟度、活動内容(体験時間等)等に応じた適切なアレンジにより HAP 体験の機会を提供する。
- ・平成27年度に施設を更新したことに伴い、運用手引書を改訂したところであるが、今後も、安全のための技術・知識の進歩に伴い、必要な改訂を行う。

イ ひょうご冒険教育(HAP) セミナー・講習会

- ・教育関係者やHAPに携わる指導者等のセミナー及び講習会の拡大を図り、指導者等の資質向上を図る。

ウ 野外活動指導者養成講座

- ・野外活動の基本的な知識・技能を習得するとともに、指導者として必要な資質を身につける機会を提供し、野外活動指導者としての人材を育成する。

エ 全県野外活動フォーラム

- ・県内の野外活動関係者が一堂に会し、これからの野外活動指導者に必要な資質や在り方についての研修を行うとともにネットワークの構築を図る。

オ うれしの台ユースセミナー【拡充】

- ・野外等における豊かな体験活動を通じて、子どもたちに感動や達成感、充実感を味わわせるとともに、集団の中での自律心、規範意識を育成することを通じて「たくましいひょうごっ子」を育成する機会を提供し、現在2コースのウィンタースクールの拡大をはじめ、内容の充実を図る。

カ ひょうご・ロシアハバロフスク少年少女交流事業

- ・本県の少年少女がロシアハバロフスク地方を訪れ(隔年で相互訪問)、交流活動やホームステイ等を通して、国際理解教育や環境学習を推進する。

キ 学校の学習活動(自然学校、トライやる・ウィーク)

- ・各学校の児童生徒にとって充実した学習活動となるよう、安全面・衛生面等に配慮したプログラムづくりや集団での学びのサポートをする。

ク 北播磨人(きたはりまびと)意識醸成事業【新規】

(ア) 「北播磨ふるさと発見連続講座」の開催

- ・地元の方は、意外と地元のことを知らないのが現実であり、そのことが“ふるさと意識”を持っていないことにつながるとともに、地域外に地元のことを発信できない原因となっている。そのため、北播磨の歴史や文化を再認識し、次代の北播磨を担う子どもたちをはじめとした地元北播磨の住民の北播磨人としての“ふるさと意識”の醸成と北播磨地域外への情報発信に資するよう、「北播磨ふるさと発見連続講座」を開催する。
- ・連続講座は、北播磨地域(範囲は5市1町域(西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町))について、歴史、民話・伝説、人物、文化・芸能、祭り、方言、

民俗、郷土料理、地勢、自然、地名、北播磨の誇り等の分野を分けて、開催する。

(イ) 「北播磨学読本」の作成、配付

- ・当該連続講座を講座の開催だけに終わらせることなく、講座内容の発信効果を持続させ、広く北播磨の子どもたち、住民に及ぶよう、当該連続講座の成果をまとめた「北播磨学読本」を作成し、学校(図書室)、図書館(郷土資料コーナー)、医療機関(待合室)、金融機関(待合ロビー)等に配付する。

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ア 兵庫教育大学との連携による生涯学習指導者育成研修(フレンドシップ実習)

- ・青少年の指導者を志す者(教育実習生)に対して、「うれしの台ユースセミナー」の指導員に必要な知識や技術を習得させるとともに、青少年の体験活動や野外活動に関する基本的な理論や実技を習得する機会を提供する。

イ 学校教育機関との連携

- ・うれしの学園生涯大学の講座の一環として兵庫教育大学、県立社高等学校、市立米田小学校、米田こども園等と連携した世代間交流事業を実施し、多世代交流の促進を図る。

ウ うれしの友の会との連携

- ・嬉野台生涯教育センターのボランティア組織として、センターに集うすべての人々をつなぐ「うれしの友の会」と連携して、年間100回を超える様々な楽しい体験や交流をしながら、参加者相互の心の交流を図り、こころ豊かな場を創造する。

エ 北播磨冒険広場たまり場事業【新規】

- ・県下で唯一の施設であるHAP施設を広く開放し、次のとおり、体験者の熟度に応じた多様なコースを設定することにより、北播磨地域内外の人達の体験・交流による地域のにぎわいづくりを行う。

(ア) HAP オープン DAY(お試し 初歩者対象 1 エレメント体験)

(イ) HAP オープン DAY プレミア(発展 初歩者対象 複数エレメント体験)

(ウ) HAP オープン DAY アカデミー(実践・専門 教職員、教員志望者対象)

オ 県内文化施設との連携(あいカード)

- ・高齢者大学の学生にあいカードを配布し、県内文化施設の利用を促す。

テーマ5 地域団体等の参画と協働による地域文化活動の支援

ア 東はりま大茶会

- ・茶道に興味・関心のある人々との交流を通して、文化の普及拡大を図る。

イ 東はりまコーラス大会

- ・コーラスグループの公演の場と交流の機会を提供し、個性ある文化活動の向上を図る。

ウ 東はりまみんよう大会

- ・みんよう愛好家が一堂に会し、発表と交流を通して文化活動の裾野の拡大と地域文化の活性化を図る。

エ 東播磨選抜美術展

- ・東播磨各市町を代表する作家の美術作品を一堂に展示し、美術への親近感や創造意

欲を喚起することにより、東・北播磨地域の美術の振興を図る。

オ 東はりま芸能祭

- ・わが国の芸能に興味・関心を持つ人々が一堂に会し、日頃の練習成果を発表し、相互の研修と交流を行うとともに、伝統芸能の啓発普及を図る。

カ 東播磨の地域文化を考える会

- ・東・北播磨地域の文化の現状と課題をみつめ、地域文化の果たすべき役割や在り方について考える。

キ 文芸誌「東はりま文化子午線」の発行

- ・公募作品を中心とした文芸誌の発行を通して文化活動の裾野の拡大と地域文化の活性化を図る。

ク 地域文化団体の支援

- ・東播磨・北播磨地域内の各種文化団体が、相互の緊密な連携のもと、情報活動を活発にし、研修を深め、もって地域の芸術文化の高揚を図ることを目的とする「東播磨文化団体連合会」と連携して、東播磨・北播磨地域内の各種文化団体の支援を行う。

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ア 貸館事業

- ・学校(自然学校、野外学習、新入生オリエンテーション等)・企業(社員研修)、社会教育団体(青少年育成、地域づくり活動等)等の学習活動、研修・会議・創作実技研修(陶芸、染色等)、スポーツ(サッカー、軟式野球、ゲートボール、グラウンドゴルフ等)・野外活動(キャンプ等)等の場として、県内外に対し、幅広く施設を提供し、県民の多様な利用を図っていく。

イ オープンキャンパス

- ・高齢者大学の学習や活動の成果を発表する場を設け、一般県民に開放することで、高齢者大学での学びや活動への理解と啓発を図り、生涯学習を推進する機会とする。

ウ ホームページの運営

- ・可能な限りの情報公開を目指すとともに、わかりやすく、親しみやすい、身近に感じてもらえる施設像の情報発信に努める。

5 但馬文教府

(1) 目指すべき姿

「来んさい 見んさい 使いんさい 文教府」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ1 生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援

ア 生涯学習情報の収集と提供

- ・県民の生涯学習を支えるため、但馬生活創造情報プラザにおいて、市町等が発行するイベント等情報刊行物をはじめとした生涯学習に関する情報を収集し、提供する。

イ 「但馬文庫」の運営【拡充】

- ・青少年及び成人の教養を高め、地域文化の向上を図るため、但馬文庫において図書

及び視聴覚資料等を収集・整理し、県民の利用に供することによって、但馬の良さを知ってもらい、ふるさと但馬を愛する心を培うとともにこころ豊かな人づくりに資する。

- ・所蔵資料の再整理・ネット等による情報発信を進めるとともに、他の社会教育施設との相互利用（貸出し）など、所蔵資料の活用促進を図る。

ウ 生涯学習公開講座

- ・市町、大学、民間の取り組みとも連携しながら、県民ニーズに対応した生涯学習の企画・推進を行い、学習の場の提供を行う。

エ 但馬生活創造情報プラザの運営

- ・芸術文化、環境、消費生活、健康、福祉等の様々な分野にわたる生涯学習、地域づくり活動等、成熟社会にふさわしい豊かな生活を創造するための県民による主体的な活動（生活創造活動）の拠点施設として運営する。

オ みてやま交流会（地域交流フェスタ）

- ・生活創造活動グループの活動をより活性化するために、登録グループ相互の交流及び登録グループと県民・地域の諸団体との交流を図る場として、生活創造活動交流会「みてやま交流会」を開催する。

カ みてやま朝市【新規】

- ・みてやま学園学生や生活創造活動グループ等利用団体の活動を支援し、地域の方々との交流促進を目的とする朝市を開催し、賑わいを創出する。

キ コミュニティ応援隊事業

- ・地域社会において「実践と一体となった学び」に重点を置いた生涯学習活動への支援を行うため、地域コミュニティの再生や地域課題解決に取り組む県民の自主的な学習活動へ講師派遣等の支援を「但馬ゆうゆう塾」の愛称で実施する。学習内容により、地域コミュニティづくり（県民交流広場関連）の学習を「立ち上げ支援」、各分野の専門家・研究者から学ぶ学習会を「分野別学習支援」とし実施する。

ク 県民交流広場事業等のネットワーク化支援事業

- ・県民交流広場をはじめとする身近な生活創造活動の場をつなぎ、地域同士やその支援者（グループ・団体等）が相互に支え合い、高め合える広域的なネットワークの構築を生活創造活動支援施策の一環として支援する。

ケ 地域ネットワーク化支援事業

- ・生活創造活動グループやそれぞれの地域で行われている地域づくり活動をより活性化するために、登録グループ相互の交流及び登録グループと県民・地域の諸団体との交流を図る場を提供する。

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ア 但馬文教府みてやま学園【拡充】

- ・生涯学習の一環として高齢者に総合的・体系的な学習の機会を提供し、生きがいのある充実した生活基盤を確立するための学習の場として運営するとともに、高齢者の生きがいづくりや社会参加を推進する。
- ・県内外から各分野で活躍する著名な講師を招くなど講座内容の更なる充実を図る。
- ・みてやま学園修了生を対象とした聴講生制度（4年制大学講座）を創設し、学習機会の拡充を図る。

イ 但馬文教府みてやま学園大学院【拡充】

- ・4年制大学講座での学習をもとに、実践的な社会参加活動について学習することにより、地域づくり活動などに主体的に取り組む意欲をさらに醸成するとともに、実践力を習得することで、地域づくり活動等の実践者を養成する。
- ・実践的な社会参加活動について、総合的・体系的に学習するため、専門の講師を招聘し、今後、企画・立案やコミュニケーションについての学びを充実させる。
- ・4年制大学講座の聴講を可能とするなど学習支援体制の充実を図る。

ウ 兵庫県高齢者学習研究協議会・学ぶ高齢者のつどい

- ・但馬の学ぶ高齢者が一堂に会し、日頃の学習成果の発表と研修等を通して学習を深め、学ぶ高齢者の交流の輪を一層広げることを目的とする。

テーマ3 未来を担う青少年の育成

ア 小・中学生作文・詩集「但馬の子ども」の発行

- ・但馬で生活する子どもたちが作文・詩の表現活動を通して、意欲的に自らの生活を見つめ、社会の形成者としての役割と責任を自覚し、ふるさと但馬を拓く担い手となる資質を身につけることを目的に、小・中学生から作文・詩を募集し、優秀作品を「但馬の子ども」に掲載する。

イ 科学する但馬の子ども作品展、研究集録の発行

- ・豊かな但馬の自然環境の中で生活している児童生徒の科学する心の育成を支援するとともに、自然の事物・現象について理解を深め、科学的思考力を養い、自らの力で探求する喜びを体験し、発表することにより子どもの生きる力の育成に資することを趣旨として作品展を開催する。また、当作品展の特別賞受賞作品を集録し、広く但馬の児童生徒に研究の要旨を知らせ、児童生徒の科学的な見方や創造する態度を育成することを支援し、さらに科学教育の振興に資する。

ウ 学校の学習活動（トライやる・ウィーク）

- ・兵庫県が実施する中学二年生を対象としたトライやる・ウィークにおいて指導ボランティアとなり、主として生徒の活動に対する指導や支援に当たるとともに、生徒の状況等を把握し、学校との連絡等を行う。

エ 科学チャレンジ in 但馬文教府【新規】

- ・理科教育に関して文教府が培ってきた先導的取組みやネットワークを活かし、幅広い団体、教育機関等との連携により、未来の但馬の担い手や世界レベルで活躍する子どもたちを育成する。

オ みてやま親子ふれあいフェスタ【新規】

- ・幼児や保護者を対象に、県立こどもの館、生活創造活動グループ、豊岡短期大学等との連携による遊び体験や育児指導等の親子イベントを通じて、施設の利用拡大を図る。

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ア 豊岡短期大学との連携【拡充】

- ・豊岡短期大学との連携協定に基づき、講座開設の実施を通して一層の強化を図る。具体的には、介護制度の概要や子育て等をテーマに、同大学において学生との合同授業を行いグループ討議を行う。また、みてやま学園学生が同大学の学園祭に参加

し、ステージ発表への出演や模擬店への出店する。

- ・豊岡短期大学学生が文教府主催事業（みてやま親子ふれあいフェスタ）に参加し子ども向け講座を開設するなど、更なる交流を深める。

イ みてやま学園学生自治会・同窓会との連携

- ・みてやま学園学生自治会及び同窓会との連携により地域実践活動講座を実施し、花の定植や清掃活動など文教府周辺道路等の環境美化活動に取り組む。

ウ 但馬高齢者生きがい創造学院との連携

- ・但馬高齢者生きがい創造学院との連携を進め、互いの学園祭で交流を深めるなど高齢者の生活創造活動を支援する。

エ 県内文化施設との連携（あいカード）

- ・高齢者大学の学生にあいカードを配布し、県内文化施設の利用を促す。

テーマ5 地域団体等の参画と協働による地域文化活動の支援

ア 文教府夏期大学

- ・国際化や情報化が進展する中で、様々な現代的課題が生まれている。このような状況の中、確かに豊かな生き方を探るため、斯界の第一人者を招き開催する講演会も、但馬の夏の風物詩として親しまれながら、今年度で50回目を迎える。50回の記念イベントを行うなど、他団体との連携を深めながら、さらに魅力ある事業へ向け取り組みを進め、但馬地域の文化、教育の振興を図る。

イ 文教府ギャラリー【拡充】

- ・但馬各地域で活躍するグループや各種事業の作品等を展示することにより、但馬の芸術文化に対する関心を高め、地域文化活動の活性化を図る。
- ・新たに、従来利用実績のないグループ、個人にも広く発表の機会を提供する。

ウ 但馬美術展

- ・但馬の芸術・文化の振興に大いに貢献している但馬美術展の歴史的な意義を踏まえ、作品を募集・展示して鑑賞の場を提供することにより更なる美術の発展を図る。

エ ふるさとの心をうたう但馬合唱祭

- ・但馬各地の合唱団体が一堂に会し、日頃の練習成果を発表しあい、交流の輪をひろげるとともに、ふるさと但馬の芸術・文化の振興と発展を図る。

オ 但馬歴史講演会

- ・但馬史への理解を深め郷土愛を育むため、但馬の歴史や遺跡についての講演会を実施する。

カ 但馬文学のつどい

- ・但馬における短詩型文学活動の活性化をめざして、短歌・俳句・冠句・川柳の合同作品発表と研さん交流の会を開催する。

キ 短詩型文学『たじま作品集』の発行

- ・但馬における短詩型文学の振興を図ることを目的とし、但馬在住者及び但馬のグループに所属する人を対象にして短歌・俳句・冠句・川柳・詩を募集し、『たじま作品集』として刊行する。

ク 地域文化団体の支援

- ・但馬で活動する各地域文化団体と連携し、但馬地域の科学・文化・教育などの研究の振興を図り、もって但馬住民の文化に対する関心を高め、郷土文化の向上に寄与

する。

ケ 但馬ふるさと芸術文化祭【新規】

- ・文教府と連携して芸術文化の振興に取り組んできた芸術文化団体や関係者とのネットワークを活かし、日頃の成果を発表するとともに、地域の芸術文化の更なる振興を図る。

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ア 貸館事業

- ・教育機関（教員研修・会議、学校クラブ活動）、芸術文化団体（創作活動、展示発表）、体育クラブ（練習、大会）、県民グループ（ボランティア、子育て支援）に加え、企業（社員研修・会議）等の活動の場として施設を提供し、県民の多様な利用を図っていく。

イ オープンキャンパス

- ・但馬文教府みてやま学園の学習活動を公開し、その内容を広く一般県民に周知するとともに、但馬文教府みてやま学園入学者の募集を目的とし実施する。

ウ ホームページの運営

- ・情報機器の普及にともない、誰もが但馬文教府の施設や事業及び生活創造活動や生涯学習に必要な情報をわかりやすくタイムリーに提供することを目指し発信する。
- ・また、フェイスブックなど SNS を活用した新たな情報発信も検討する。

6 西播磨文化会館

(1) 目指すべき姿

「Welcome 西播磨文化会館 ～ 四季のあじわい、豊かな学びと活動の拠点 ～」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ1 生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援

ア 生涯学習情報の収集と提供

- ・県民の生涯学習を支えるため、西播磨生活創造プラザにおいて、市町等が発行するイベント等情報刊行物をはじめとした生涯学習に関する情報を収集し、提供する。
- ・中・西播磨地域の歴史、文化・産業などの関連図書を整備することにより、地元への愛着・ふるさと意識の向上に寄与し、西播磨文化会館を地域学のプラットホームとして運営する。

イ 生涯学習公開講座

- ・市町、大学、民間の取組みとも連携しながら、県民ニーズに対応した生涯学習の企画・推進を行い、学習の場の提供を行う。

ウ 西播磨生活創造プラザの運営

- ・芸術文化、環境、消費生活、健康、福祉等の様々な分野にわたる生涯学習、地域づくり活動等、成熟社会にふさわしい豊かな生活を創造するための県民による主体的な活動（生活創造活動）の拠点施設として運営する。

エ 西播磨生活創造活動グループ交流会

- ・生活創造応援隊を中心に企画運営する「西播磨生活創造活動グループ交流会」において、生活創造活動グループの活動の相互交流及び情報交換の場を提供する。

オ 西播磨生活創造しんぶん「ネットめばえ」の発行

- ・生活創造応援隊員が地域で活躍されている方々や地域の話題等を「ネットめばえ」で情報を提供し、地域の輪をひろげる。
- ・企業協賛広告を募集し、財源の確保も行っていく。

カ 生活創造活動グループの育成支援【拡充】

- ・活動場所の提供、印刷機の利用などにより、自主グループの活動を支援する。
- ・新たに、生活創造活動グループの「ボランティア活動情報」をホームページで公開し、利用者のニーズに応じたグループとのマッチングをはじめめる。

キ コミュニティ応援隊事業

- ・県民交流広場の効果的な活用や地域の様々な課題解決を応援するため、地域で開催される研修会や学習会にコミュニティ応援隊の登録講師を派遣する。

ク 県民交流広場事業等のネットワーク化支援事業

- ・西播磨県民局と連携し、県民交流広場事業実施地区、グループ、団体、NPO等のネットワークづくりを支援するため「県民交流広場事業実施地区の交流会」を開催する。

ケ 放送大学西播磨教室の開設

- ・放送大学センター外視聴施設として、一部の放送教材を配架しており室内視聴だけでなく、室外貸出も行う。

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ア 西播磨文化会館ゆうゆう学園

- ・生涯学習の一環として、高齢者が豊かな生きがいのある生活を送るために必要な教養と、地域づくり活動に役立つ専門知識や技能を身につけられるよう、総合的・体系的な学習の場を提供し、高齢者の生きがいづくりや地域の活性化を推進する。

イ 西播磨文化会館ゆうゆう学園大学院

- ・4年制講座等での学習をもとに、実践的な社会参加活動について学習することにより、地域における課題に対して、より主体的、実践的、専門的に取り組むことができる人材を育成し、地域発展に寄与できる実践者としての資質を養う。

ウ 兵庫県高齢者学習研究協議会・学ぶ高齢者のつどい

- ・県と市町の高齢者大学等の担当者を対象に、互いに高齢者の生涯学習に関する情報交換をすることで、中・西播磨地域における生涯学習活動を支援する。
- ・中・西播磨地域の高齢者大学や高齢者教室で学習する人々が一堂に会し、日頃の学習成果の発表と研修を通じて学習を深め、学ぶ高齢者の交流の輪を広げることが目的として「学ぶ高齢者のつどい」を開催する。

エ ゆうゆう学園祭

- ・ゆうゆう学園大学・大学院の学生の日頃の活動の成果を発表し、地域団体のバザー・ステージへの賛助出演等、地域住民を含めた交流の場として開催する。

オ 普通救命講習会

- ・ゆうゆう学園の学生だけでなく、県民を対象に心肺蘇生法を身につける機会を提供する。

テーマ3 未来を担う青少年の育成

ア 学校の学習活動（インターンシップ、トライやる・ウィーク）

- ・各学校の生徒にとって充実した学習活動となるよう、安全面・衛生面等に配慮したプログラムづくりや集団での学びのサポートをする。

イ 青少年の地域文化活動の促進・顕彰

- ・「西播磨ふるさと写真展」、「西播磨俳句祭」及び「西播磨短歌祭」への中学生・高校生の作品応募を促進するとともに、優秀作品を顕彰する。
- ・中・西播磨地域で活動する児童合唱団を育成し、「ふるさとの心をうたう西播磨音楽祭」を公演の場と交流の機会として活用する。

ウ にしはりまキッズフェスティバル【新規】

- ・西播磨文化協会連絡協議会と連携し、中・西播磨地域において文化活動（日本舞踊・伝統芸能等）を行っている子ども（小学生～高校生）が一堂に会し、日頃の練習成果を発表する機会を設け、伝統文化の技能向上・継承に寄与する。

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ア 県立龍野北高等学校との連携

- ・平成23年からの県立龍野北高等学校との連携協定に基づき、互いの持つ資源の有効活用を通じて、高校生と高齢者のコミュニケーションを図り、地域貢献をめざした人材育成を促進することを目的として、高校生と高齢者大学生との意見交換会や看護・介護体験講座、高校生による森づくり等様々な連携事業を実施する。
- ・ゆうゆう学園生がSP（模擬患者）となり、高校生が継続的な看護ケアを行う看護科実習ボランティアに取り組む。看護科の高校生にとって今後の実習現場での看護・福祉面での貴重な体験となるとともに、高齢者にとって異世代との交流体験となる他に例のない実践的な取り組みであり、今後更に相互の連携を深めていく。

イ ゆうゆう学園学生自治会・同窓会との連携

- ・学生自治会・同窓会が連携し、研修会やクラブ活動への参加など様々な交流をしながら、地域におけるボランティア活動等の地域づくり活動の促進へつなげる。
- ・ゆうゆう学園クラブや同好会が、西播磨県民局主催の「西播磨フロンティア祭」で開催される「出る杭大会」に出場し、日頃の地域づくり活動を発表することで更なる地域づくり活動の活発化を図る。

ウ 県内文化施設との連携（あいカード）

- ・高齢者大学の学生にあいカードを配布し、県内文化施設の利用を促す。

テーマ5 地域団体等の参画と協働による地域文化活動の支援

ア 播州段文音頭大会

- ・中・西播磨地域を代表する郷土文化の一つである地域に唄い継がれてきた、「播州段文音頭」を、保存・継承する保存会を支援するため、交流の機会を提供することで、活動の活性化と地域文化の振興を図る。

イ 西播磨ふるさと写真展

- ・中・西播磨地域を見つめ、そこに生きる人、歴史、文化、そしてそれらを育んだ自

然の偉大さ、豊かさを写真に表現し、ふるさとを考える機会にするため、作品を公募（年齢制限なし）する。また、作品の鑑賞を通じて、互いの技量の向上や交流の輪の拡大を目指し、地域文化の活性化を図る。

ウ 西播磨俳句祭

- ・地域文化活動の活性化を図るため、中学生・高校生・俳句愛好者から作品を公募し、入選者を表彰するとともに、講師を囲んで作品の鑑賞を行う中で、互いの創作意欲の高揚を図る機会を提供する。

エ 西播磨短歌祭

- ・地域文化活動の活性化を図るため、中学生・高校生・短歌愛好者から作品を公募し、入選者を表彰するとともに、講師を囲んで作品の鑑賞を行う中で、互いの創作意欲の高揚を図る機会を提供する。

オ ふるさとの心をうたう西播磨音楽祭

- ・中・西播磨地域で活動している合唱団等の音楽団体（児童合唱含む）を育成し、芸術文化活動の向上を図るため、公演の場と交流の機会を提供する。

カ 西播磨ふるさと文化祭【新規】

- ・西播磨県民局、西播磨青少年本部と企画運営を行い、子どもから高齢者まで参加できるように、地域団体、地元高校生などが参加して展示・出店・発表、プロのミュージシャンも参加する大規模イベントを開催する。

キ 播磨「歴史・地域学」講座【新規】

- ・中・西播磨地域の歴史・文化・産業などを学ぶ講座を実施するとともに、地元への愛着・ふるさと意識の向上に寄与する。また、地域の歴史・文化関連図書を整備することにより、文化会館が歴史等に関心のある人の「たまり場」となることを目指す。

ク ゆうゆうの森音楽フェスティバル【新規】

- ・幅広いジャンル、世代を巻き込んだ音楽会を地域団体との協働により開催し、西播磨地域の音楽文化の振興を図る。また、施設を音楽の会場・練習場として利用促進につなげる。

ケ 地域文化団体の支援

- ・中・西播磨地域内の文化協会が、相互の緊密な連携のもと、情報活動を活発にし、研修を深め、もって地域の芸術文化の高揚を図ることを目的とする「西播磨文化協会連絡協議会」と連携して、中・西播磨地域内の各種文化団体を支援する。

コ 展示事業

- ・西播磨消費生活センターとの共催によるパネル展、西播磨文化会館所蔵作品展、生活創造活動グループ作品展、ゆうゆう学園クラブ作品展等、展示事業を通じて、中・西播磨地域の生活創造活動や芸術文化活動の支援及び情報提供を行う。
- ・西播磨石彫シンポジウム（1985～2005年）の成果として会館敷地内に残された石彫モニュメントを活用し、会館の利用促進を図る。

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ア 貸館事業

- ・学校、企業、社会教育団体等の学習活動、研修、会議、スポーツ（軟式野球、グラウンドゴルフ等）等の場として施設を提供し、県民の多様な利用を図っていく。

イ オープンキャンパス

- ・高齢者大学の学習や活動の成果を発表する場を設け、一般県民に開放することで、高齢者大学での学びや活動への理解と啓発を図り、生涯学習を推進する機会とする。

ウ ホームページ等の運営

- ・会館に関する情報等を提供するため、会館ホームページの充実を図るとともにメールマガジンを発信し、情報提供に努める。

7 淡路文化会館

(1) 目指すべき姿

「国生みの島の宝を活かし、新たな価値を生み出す学びの場」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ1 生涯学習・地域活動の総合的推進・支援

ア 生涯学習情報の収集と提供

- ・県民の生涯学習を支えるため、淡路生活創造情報プラザにおいて、市町等が発行するイベント等情報刊行物をはじめとした生涯学習に関する情報を収集し、提供する。

イ 日本遺産認定記念セミナー（生涯学習公開講座）【新規】

- ・市町、大学、民間の取り組みとも連携しながら、県民ニーズに対応した生涯学習の企画・推進を行い、学習の場の提供を行う。
- ・日本遺産認定を機に、淡路島の地域資源について学ぶ一般県民向けの地域公開講座を実施し、地域づくりへの意識醸成を図る。

ウ 淡路生活創造情報プラザの運営

- ・芸術文化、環境、消費生活、健康、福祉等の様々な分野にわたる生涯学習、地域づくり活動等、成熟社会にふさわしい豊かな生活を創造するための県民による主体的な活動（生活創造活動）の拠点施設として運営する。

エ 生活創造活動グループ交流会【拡充】

- ・「淡路生活創造情報プラザ」に登録している生活創造活動グループの発表と交流の機会を設け、その活動を広く住民に知っていただくことで、住民の生活創造活動への参加を促すとともに、淡路生活創造情報プラザを利用いただく新たな生活創造活動グループを発掘する。

オ 「生活創造しんぶん」の発行

- ・地域で行われている生活創造活動や文化的な催しに関する情報を掲載した「生活創造しんぶん」をフルカラーA4判8頁で、毎月発行する。

カ 放送大学視聴教室の開設

- ・放送大学の受講生等の利用に供する。

キ 淡路文化会館ライブラリー

- ・淡路文化会館が所有する図書、資料、視聴覚資料等を閲覧、貸出に供するとともに、資料目録等を整備し、社会教育施設等に提供する。

ク 県民交流広場事業等のネットワーク化支援事業

- ・県民交流広場の活動状況について情報収集を行い、生活創造しんぶん等を活用してその情報を広く発信することで、県民交流広場の担い手づくり、ネットワーク化等を支援する。

ケ 県民交流広場への参加促進事業

- ・生活創造活動グループ等が県民交流広場の事業等に参加することを支援する。

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ア 淡路文化会館いざなぎ学園

- ・高齢者に、学習年限4年で総合的、体系的な学習の機会を提供し、高齢者が生きがいある充実した生活基盤を確立し、地域の実践者としての素養を身につけることを支援する。

イ 淡路文化会館いざなぎ学園大学院

- ・高齢者大学講座を修了した者に、学習年限2年で社会参加活動に係る総合的、体系的かつ実践的な学習機会を提供し、高齢者が地域づくり活動の実践者となることを支援する。

ウ 兵庫県高齢者学習研究協議会・学ぶ高齢者のつどい

- ・兵庫県高齢者学習研究協議会淡路ブロックの事務局として、淡路地域で学ぶ高齢者が日頃の学習成果の発表や作品展等を通じて学習を深める「学ぶ高齢者のつどい」や高齢者生涯学習カリキュラム研修会等を開催するとともに、兵庫県高齢者学習研究協議会本部の情報を各市の公民館等に提供することで、淡路地域における生涯学習活動を支援する。

テーマ3 未来を担う青少年の育成

ア 日本遺産認定記念国生みの島フェスティバル【拡充】

- ・子どもの健全育成や地域づくりを目的として活動している団体又は個人に、子どもの健全育成を目的としたプログラムや国生み神話をはじめとする淡路島の地域資源に関するプログラムを出展していただき、こころ豊かで健やかな子どもの育成と淡路島の地域資源への関心を高める(いざなぎの丘元気っ子フェスティバルの拡充)。

イ 学校の学習活動(トライやる・ウィーク)

- ・地元一宮中学校生徒の地域体験活動の場所と機会を提供する。

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ア いざなぎ学園学生自治会との連携

- ・いざなぎ学園学生自治会の運営に協力し、学園学生相互の親睦を深めることに寄与するとともに、自治会が行う施設内、施設周辺等の清掃その他の環境美化活動を支援することで、いななぎ学園の学習環境の向上を図る。

イ 県内文化施設との連携(あいカード)

- ・高齢者大学の学生にあいカードを配布し、県内文化施設の利用を促す。

テーマ5 地域団体等の参画と協働による地域文化活動の支援

ア 淡路島民俗芸能フェスティバル

- ・淡路地域の伝統芸能、郷土芸能、創作芸能等の保存・継承に取り組む団体と徳島県

からの招待団体が一堂に会し、日頃の練習成果を相互鑑賞して交流することで、後継者の発掘や育成を図る。

イ 淡路だんじり唄コンクール

- ・淡路の伝統芸能である「だんじり唄」のコンクールを開催し、その技能向上と後継者育成を図る。

ウ 淡路地域文化力促進事業

- ・淡路文化会館を核とする実行委員会を組織して芸術文化事業を実施し、淡路地域の文化力の向上を図る。

エ 淡路人形浄瑠璃魅力発信事業

(ア) 淡路人形浄瑠璃後継者交流発表会

- ・全国の人形浄瑠璃後継団体等と連携し、後継者団体の日頃の活動成果の発表と交流の場を設ける。

(イ) 淡路人形浄瑠璃の公演

- ・淡路島外で、中学校及び高等学校の部活動とプロの劇団による淡路人形浄瑠璃の公演を行い、淡路人形浄瑠璃の魅力を広く発信するとともに、後継者の育成を図る。

オ 美術作品等展示（展示室・県民ギャラリー）

- ・島内外の優れた美術作品等を展示することで、創作活動を促進するとともに、芸術鑑賞の機会を提供する。

カ 美術展示ボランティアの育成

- ・美術展示室及び県民ギャラリーの展示について、その企画及び展示に参画するボランティアを育成する。

キ 淡路日本画セミナー

- ・日本画の創作技術の習得と鑑賞眼を養うことを目的とした講座を開設する。

ク 淡路洋画セミナー

- ・洋画の創作技術の習得と鑑賞眼を養うことを目的とした講座を開設する。

ケ 文化・教養・スポーツに関する入門講座【新規】

- ・淡路文化会館では、これまでに声楽、日本画、洋画などの文化講座を開設してきたが、市の公民館では取り組みにくいラフターヨガ、ニュースポーツ等の新たな文化・教養・スポーツ等に関する入門講座を開設し、文化会館の新たな利用層を発掘し、地域文化の振興に寄与する。

コ 淡路文化会館 PR 事業

- ・淡路文化会館で実施する日本画・洋画セミナー受講生作品の展示等を通して淡路文化会館の事業の PR を行う。

サ スプリングコンサート

- ・淡路島内の音楽関係団体や愛好家に発表と交流の機会を提供し、淡路地域の音楽活動の振興を図る。

シ 郷土資料の収集・提供（DVD 化促進）

- ・図書・郷土資料収集に加え、淡路地域の郷土芸能等を DVD 化し、貴重な郷土芸能を後世に残すとともに、必要に応じて資料として一般に提供する。

ス 淡路伝統文化の振興と情報発信

- ・島内の伝統文化や郷土芸能の保存・継承等を図るため、パネル展示やホームページによる情報発信を行う。

セ 地域文化団体の支援

- ・淡路文化団体連絡協議会の事務局として、島内の文化団体及び兵庫県地域文化団体協議会との連携、調整を図るとともに、淡路芸術文化祭、淡路ふるさと文化交流事業、文化情報誌「あわじ」の発行などの事業を推進する。

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ア 貸館事業

- ・指定管理者として、淡路文化会館の諸施設を住民が実施する講習会、講演会、展示会、スポーツに関する行事等に施設を提供し、県民の多様な利用を図っていく。

イ オープンキャンパス

- ・いざなぎ学園に興味を持っている人に、講座の一部に参加していただけるプログラムを提供する。

ウ 地域情報提供事業

- ・これまで文化会館が蓄積してきた生涯学習や淡路地域の文化に関する情報等の地域情報を、幅広く発信できるようホームページの改善を行うほか、SNSなども活用して積極的な情報発信を行う。

8 ふるさとひょうご創生塾

(1) 目指すべき姿

「人と人、地域の絆（ふるさと）創り人」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ1 生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援

ア ふるさとひょうご創生塾【拡充】

- ・県内大学との連携を図るとともに、県、市町、社会福祉協議会等の若手職員や子育てを終えた女性へのPRに努め、多世代の入塾を促進する。
- ・若年層の経済負担を軽減するため、次善の策として受講料の軽減策を検討する。
- ・地域づくり活動に係る社会的ニーズを的確に反映できるようカリキュラムの随時見直しを行う。
- ・具体的な目標・指針を示すことができる地域づくり活動の精通者をより幅広く講師に招聘するとともにカリキュラムの中で卒塾生の経験・課題解決のための方策のノウハウの提供もより多く取り入れること検討する。
- ・卒塾生の地域づくり活動に係る具体的支援策について検討する。

イ ふるさとひょうご創生塾アドバイザー

- ・ふるさとひょうご創生塾アドバイザーによる塾活動の企画や塾生募集への助言等の支援を行う。

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ア OB会（塾友会等）との連携

- ・OB会（塾友会等）との連携により、卒塾生の地域づくり活動の促進を図る。

イ 県内文化施設との連携（あいカード）

- ・塾生にあいカードを配布し、県内文化施設の利用を促す。

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ア ホームページの運営

- ・応募者の増加を図るため、ふるさとひょうご創生塾に関する情報を協会ホームページで発信する。

9 総務部

(1) 目指すべき姿

「攻める経営、守る経営で現場を支える。」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ア みどりのサポーター【拡充】

- ・いなみ野ガーデニングの日におけるいなみ野学園園芸学科卒業生等のサポーターによる低木や草花の植栽管理を実施するほか、園芸学科講師による技能講習等により、参加意欲を促す。

イ 高齢者園芸センターサポーターの設置【新規】

- ・貸農園利用者への指導助言や作物の生産販売を行うサポーターを設置し、卒業生の学びを生かす実践農場として活用していく。

テーマ6 経営の健全性・透明性の確保

ア 施設管理【拡充】

- ・いなみ野学園や指定管理施設等の施設改修計画を策定し、予算管理の中で優先順位を決めて効果的、効率的な施設整備を進めることで、利用者の安全・安心と快適性を確保するとともに、高齢者大学入学者や貸館等利用者の増加につなげる。

イ いなみ野キャンパスの一般開放【新規】

- ・休日に一般利用ができる料金設定や体制整備を行い、キャンパスの有効活用・利用促進を図る。

ウ 中長期的な職員体制の構築【新規】

- ・中長期的な視点での施設管理やデータ管理に対応できるよう職員体制を整備し、安定的・持続的な協会運営を進める。また、新学舎の供用開始に合わせ、阪神シニアカレッジの適正な職員体制を確保する。

エ 財務管理

- ・県からの支援が限定される中、学生確保による受講料等自主財源の安定的確保と絶え間ないコスト削減に努め、安定した黒字収支を目指す。
- ・また、ふるさと納税による寄附金、イベント協賛金などによる財源確保を求めている。

オ 高齢者園芸センター、高齢者陶芸の村、高齢者手づくりの店等の運営【拡充】

- ・高齢者だけでなく誰でも利用できる親しみやすい施設とするため、愛称を募集し、積極的にPRすることで、近隣住民や若い世代の利用促進を図り収益確保をめざす。
- ・協会所有施設の有効活用を図る。

カ 生きがい創造協会のPR【拡充】

- ・ブランド力向上を図るため、各施設の特徴や個性がイメージできるキャッチコピーの活用や、話題性のある有益な情報を協会ホームページやロコミ等により発信していくことで認知度をさらに高め、ファン（支援者）を増やす。
- ・協会運営の健全性・透明性を明らかにするとともに、事業内容を分かりやすく情報発信するため、協会全体のパンフレットを作成し、様々な場面でPRしていく。当該パンフレットは、生きがい通信の特集号として冊子を作成し、関係機関等の協賛を得て発行する。

10 生涯学習部

(1) 目指すべき姿

「楽しさ∞（無限大）。あなたの知的好奇心を満たします。」

(2) 今後の事業の方向性

テーマ1 生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援

ア ひょうごインターキャンパス【拡充】

- ・教育機関・民間企業・行政等様々な生涯学習機関と連携し、多彩で幅広い生涯学習情報を提供するウェブサイト「ひょうごインターキャンパス」の利用拡大等を図るため、参画機関に対するアンケート調査を実施するとともに、リンク先の拡大促進を図る。
- ・参画機関として登録されていない公民館、生涯学習センター、高齢者大学等に対し、個別に参画を働き掛け、登録の促進を図る。

イ 生涯学習リーダーバンク【拡充】

- ・生涯学習で得た知識・技能を生かし、ボランティア指導者として学習グループ等の活動支援をしようとするふるさとひょうご創生塾卒塾生やいなみ野学園研究生の新たな登録を促進するとともに、その利用促進を図り、学びの社会還元を推進する。

ウ 生涯学習推進アドバイザー

- ・市町等の生涯学習関係機関が抱える課題の解決等を支援するため、生涯学習推進アドバイザーを派遣し、市町等の生涯学習事業の向上に寄与する。
- ・生涯学習推進アドバイザーの拡充について検討を進める。

エ 生涯学習情報コーナー

- ・講座、資格、施設、イベント等に関するチラシ、パンフレット、冊子等をそろえ、各種の生涯学習情報を提供するとともに、学習計画の立て方、学習グループの運営方法等についての相談に応える。

オ 生涯学習公開講座【拡充】

- ・市町、大学、民間の取組みとも連携しながら、新たな県民ニーズに対応した次のような生涯学習公開講座等の企画を検討していく。
 - (ア) 知的好奇心を満たす高度なカリキュラムによる講座
 - (イ) 有償ボランティア等の就労ニーズに対応したキャリアアップ講座

- (ウ) 日々の暮らしに生かせる地縁団体運営ノウハウやマンション管理に係る講座
- (エ) 現地実習で学ぶ体験型地域学講座

カ 社会教育関係職員研修【拡充】

- ・地域における学習拠点・活動拠点である公民館等の生涯学習関係機関の職員等を対象とする体系的な研修機会の充実を図る。
- ・地域課題の解決に必要なファシリテート力、コーディネート力等の向上を図る研修の更なる充実を図り、関係職員の資質向上に資する。
- ・新任職員を対象とする研修においては、基礎的知識の習得や職員相互のネットワークづくりを促進するため、参加体験型ワークショップの手法を積極的に取り入れる。
- ・課長・施設長等の指導者を対象とする研修においては、国・県の施策の動向等を中心とした実践的な生涯学習関係情報を提供し、有用な情報交換の場とする。

キ 兵庫県生きがい創造協会運営懇話会

- ・新たな事業展開や既存事業の見直しに資するため、生涯学習推進アドバイザー等の有識者が協会の各種事業運営に関して自由な意見交換を交わす「兵庫県生きがい創造協会運営懇話会」を設置運営する。

テーマ2 地域社会を支える高齢者の学びの支援

ア 兵庫県高齢者学習研究協議会・学ぶ高齢者のつどい

- ・県内の高齢者大学や高齢者教室が連携し、研修事業等を実施する兵庫県高齢者学習研究協議会の事務局を運営し、県内の学ぶ高齢者が一堂に会し、日頃の学習成果を発表し、交流の輪を広げる学ぶ高齢者のつどい中央大会や全県研修会を開催する。

イ 全国健康福祉祭（ねんりんピック）

- ・全国の高齢者がスポーツ等を通じて交流を深める全国健康福祉祭（ねんりんピック）に兵庫県選手団を派遣する。

（H29：秋田県・H30：富山県・H31：和歌山県・H32：岐阜県）

ウ シニアニュースポーツ

- ・グラウンド・ゴルフをはじめとするシニアニュースポーツの普及促進を図り、当協会が開発したツウゲットボールの全県大会を開催する。

テーマ4 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

ア 兵庫大学、兵庫教育大学等との連携【拡充】

- ・兵庫大学・兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、産学公人材イノベーション推進協議会（事務局：兵庫県立大学）等との連携により、生涯学習講座の開設、学校施設の相互利用等を実施する。
- ・連携事業の企画調整に際しては、いなみ野学園と兵庫大学との連携事業の企画調整を行う IH 委員会や協会各施設と兵庫教育大学との連携事業の企画調整を行う連携協定推進会議を開催し、連携内容の充実を図る。
- ・また、新たな連携先の開拓の検討も進める。

イ 東加古川文教施設連携構想【拡充】

- ・JR 東加古川駅北東部にある文教施設である兵庫大学、加古川総合文化センター及び

いなみ野学園が連携する「東加古川文教施設連携構想」の展開により、すべての人が学習意欲を実現できる「生涯学習のまち」の創造を図り、地域創生につなげていく。

ウ 兵庫陶芸美術館・県立考古博物館等社会教育施設との連携

- ・兵庫陶芸美術館及び県立考古博物館との連携により、高齢者大学への講師派遣、各施設の実施事業への積極的な参加等を実施する。
- ・新たな社会教育施設（美術館、博物館、図書館等）との連携の開拓も含めて連携事業の充実に努める。

エ あいカードによる施設間の連携

- ・県内の美術館、博物館等の文化施設における県高齢者大学等学生を対象とする割引利用制度（あいカードの提示による割引）により、学生の学習ニーズに対応するとともに、文化施設の利用促進を図る。

オ 高齢者学習研究協議会・兵庫県公民館連合会との連携

- ・社会教育関係職員等研修や生涯学習関係調査研究の共同実施を引き続き行い、高齢者学習研究協議会・兵庫県公民館連合会との連携を強化していく。

カ 全国明るい長寿社会づくり推進機構連絡協議会との連携

- ・高齢者の生きがいづくり・健康づくりを推進し、地域の支え手となる高齢者を育む活動に取り組む全国明るい長寿社会づくり推進機構連絡協議会が主催する会議・研修会に参加し、推進機構相互の情報交換や事業推進の協議を行う。

キ 関西シニア大学校交流事業【拡充】

- ・関西シニア大学校交流会に参加し、関西の高齢者大学の学生・OBが一堂に会する場で、学生間の交流の輪を広げる。平成31年度の交流会は、兵庫県内で開催する。

テーマ6 経営の健全性・透明性を確保

ア 入学者募集強化本部【拡充】

- ・各年度の入学者募集に際し、引き続き入学者募集強化本部を設置し、入学者募集に係る記者発表、県広報紙や市町広報紙への掲載、リーフレット等の配布、協会ホームページでの発信など、広報活動の充実に努めるとともに、複数回のオープンキャンパスの開催等を行い、高齢者大学等の定員確保に努める。

イ 生きがい通信の発行

- ・県民の生きがいづくり・健康づくりに関する情報等を紹介し、豊かなライフスタイルの創造や参画と協働による地域社会への貢献についての意識啓発を図るため、ニュースレター「生きがい通信」を年3回、協会ホームページにより発信する。

ウ ホームページの運営

- ・当協会のホームページに、引き続き協会所管各事業に関する情報等を積極的に掲載して、情報発信機能を高める。

兵庫県生きがい創造協会経営ビジョン策定までの経過

- 平成28年 8月 1日 兵庫県生きがい創造協会運営懇話会設置
- 平成29年 6月 1日 上杉孝實 委員（京都大学名誉教授） から個別意見聴取
廣岡 徹 委員（元兵庫教育大学教職大学院教授）から個別意見聴取
- 6月 2日 清水勲夫 委員（(一財)兵庫県野外活動協会専務理事）から個別意見聴取
- 7月 3日 田辺真人 委員（園田学園女子大学名誉教授）から個別意見聴取
- 10月30日 兵庫県生きがい創造協会運営懇話会開催 意見交換
- 11月 9日 理事会において審議・策定

兵庫県生きがい創造協会運営懇話会委員（五十音順）

- 岩木 啓子 氏（ライフデザイン研究所FLAP代表）
上杉 孝實 氏（京都大学名誉教授）
柏木 登起 氏（NPO法人シミズシーズ代表理事）
清水 勲夫 氏（(一財)野外活動協会専務理事）
田辺 真人 氏（園田学園女子大学名誉教授）
田端 和彦 氏（兵庫大学副学長）
中山 光子 氏（認定NPO法人宝塚NPOセンター事務局長）
廣岡 徹 氏（元兵庫教育大学教職大学院教授）
萬浪 佳隆 氏（兵庫県公民館連合会会長）

兵庫県生きがい創造協会経営ビジョン

平成 29 年 11 月

公益財団法人兵庫県生きがい創造協会

兵庫県加古川市平岡町新在家 902-3

TEL 079-424-9832 FAX 079-424-3475